

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	国語・現代文	学年・学級	5年・文系/理系	単位数	文系3 /理系2
--------	--------	-------	----------	-----	-------------

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

<b>【学習目標】</b>	
1 言語に対する知識や関心を深め、豊かな言語生活のための基礎能力を育成する。 2 近代以降の優れた文章や作品を鑑賞・読解する。 3 作品を通じてものの見方・感じ方を深め、思考力・表現力を育成する。	
使用教科書 ・副教材等	教科書：精選現代文（東京書店） 副教材：力をつける現代文（標準演習）/高校生必修語彙ノート 日本文学史必修ノート（古典と共通）/新版完全征服演習入試漢字コア1800

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考査 範囲	考査に出題する 要点(合格ライン)
前 期	4	課題テスト 小説 「山月記」	・虚構性の強い小説の読み方に習熟する。	・漢文調の文体に慣れる。 ・作中人物の言動・心理を的確に読みとる。 ・人間や人生について自ら思索を深める。	第1回考査	小説 ・文体・語句の理解 ・心理描写の理解
	5	評論 「最初のペンギン」  模試対策	「人生論」というテーマで評論を読む意義を考える。	創造とは何かを論の展開を実感しながら考える。		評論 ・論理的な展開の理解
	6	評論 「ミロのウーナス」  教科テスト	「芸術論」というテーマで評論の読み方を学ぶ。	・美とは何かという内容を通して論理的な文章の展開を読み取り、評論の読み方を理解する。		評論 ・論理的な展開の理解 ・評論用語の理解と実践
		第1回考査				
		模試対策			第2回考査	
	7	小説 「城の崎にて」  課題テスト	・文章の達人と定評ある志賀直哉の小説を味わ	・心理描写を読みとると共に人の運命の偶然性を淡々と描いた無駄のない文章を味わう。		小説 ・語句の理解 ・心理描写の理解
	8	詩歌 ・I was Born	・現代詩の鑑賞の仕方に習熟する。	・作者の詩壇における立場・位置を理解し、著名な詩を鑑賞・理解する。		詩歌 ・修辞法の習得
	9	・永訣の朝 評論 「リアリズムのおけいこ」  第2回考査	・「身体論」というテーマで評論の読み方に習熟し論理的なものの考え方を身につける。	・アフォードダンス論を通して現実への疑い・批評能力を養う。		評論 ・主張の読み取り

後 期	10	小説 「こころ」	・長編小説の読み方に習熟する。 ・登場人物の心理を読みとる。 ・人間の生き方について自らの考えを深める。	・時代背景とそこに生きる人間との関係を理解する。 ・作者の文学史的位 置づけを把握する。	第3 回 考 査	小説 ・心理描写の読 みとり ・長編小説にお ける伏線の役割
	11	模試対策  <b>第3回 考 査</b>				
	12	評論 「ハイテクと人 間のゆくえ」	・「科学論」というテ ーマで現在の相対化と人間 の生き方を考える。	・言語の特徴を理解す ・ハイテク化による未来 を考えることで現在をど う生きるかを考える。	第4 回 考 査	評論 ・主張の読み取り ・言語の特徴の 理解
	1	課題テスト  評論 「抗争する人 間」  教科テスト	・「倫理観」というテ ーマで自分を見つめる。	・虚栄心とどう向き合 うかを考えさせると共に自 己の生き方に思いを馳せ る。		
2	表現 「課題文読解型 小論文を書く」  <b>第4回 考 査</b>	・課題文の読み取りと問 の立て方に習熟する。	・600～800字の小	表現 ・根拠の必要性 の理解		
<b>【課題・提出物等】</b>		ノート・問題集・宿題・週末課題・長期休暇課題等				
<b>【年間を通しての評価方法】</b>		定期考査・教科テスト・課題テスト・小テスト・提出物・授業態度等				

## (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意 欲・態度	授業に関心を持って積極的に取り組み、内容の理解・知識の習得に努める。	授業態度・提出物
思考・判断	作品の構成や行間を読み取り、作品の主旨を把握することができる。	考査・発言
技能・表現	様々な表現方法を使った作品を理解することができる。また、それによって生まれた自分の考えを・感想を表現することができる。	考査・発言・ 作文等
知識・理解	漢字の書き取りや文章表現の読み取り、文学史、慣用句の意味等、作品を読み取る上で必要な知識を身につける。	考査・小テスト

## (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイント(70ポイント×4回)</b> 定期考査・教科テスト・課題テストで判断します。
<b>平常点ポイント(30ポイント×4回)</b> ノート・問題集・宿題・長期休暇課題・小テスト・授業態度で判断します。

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	国語・古典	学年・学級	5年・全類型	単位数	3
--------	-------	-------	--------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

古文・漢文に用いられている語句の意味、用法および分の構造を理解する。  
文章や作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえる。

- 1 提出物は期限を厳守すること。(期限を過ぎたものにはポイントを与えないが、必ず提出すること)
- 2 授業に積極的に取り組むこと。(取り組み方によっては出席と認めない)
- 3 理由のない遅刻・欠課は認めない。(一定数を超えた場合、単位認定に関わる)

使用教科書・副教材等	<p>【教科書】精選古典(東京書籍)</p> <p>【副教材】読んで見て覚える重要古文単語315 改訂版 完全傍訳やさしく詳しい古典文法 改訂版 完成日本文学史必修ノート改訂版 改訂版みるみる実力アップ古典総合・stage2 進研WINSTEP古典2 改訂版 例文による漢文の習得 テーマ別・作品別 漢文クリア</p> <p>【辞書】全訳古語辞典 第三版小型版(旺文社)または電子辞書</p>
------------	--

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)		
1	4	『古今著聞集』 「能は歌詠み」	古典学習のねらいを確認し、学習方法を確立する。	ノートの取り方、考查の学習方法、家庭学習の方法を確認する。	第1回 回 考 査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要古語</li> <li>・問題集</li> <li>・現代語訳</li> <li>・文法問題</li> <li>・内容問題</li> </ul>		
		『宇治拾遺物語』 「夢買ふ人」	説話を読み、その構成や展開に即してあらすじをとらえる。	口語訳を自力で作る練習をする。				
	5	『徒然草』 「筑紫に…」 「家居の…」	随筆を読み、作者の自然観や人生観に触れる。	4年時の用言、助動詞の確認と復習。				
		小話 「晏子之御」 「先從隗始」	訓読の基本について理解する。  話の展開に即して、内容を正確に読み取る。	漢文訓読について復習し、句法を理解する。  音読を繰り返し、漢文独特の読みに慣れる。 漢文の構成について理解する。				
	7	模擬試験対策	模擬試験での実践力を高める。	模擬試験の過去問題を解く。			第2回 回 考 査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要古語</li> <li>・問題集</li> <li>・現代語訳</li> <li>・文法問題</li> <li>・内容問題</li> </ul>
		『枕草子』 「すさまじきもの」	随筆文学の面白さを知る。 助動詞について理解を深める。	4年時の用言、助動詞の確認と復習。 使役と尊敬の助動詞について学ぶ。				
9	『平家物語』 「壇の浦の合戦」	軍記の表現上の特色について理解する。	音便や呼応の副詞について理解する。					

後 期	10	『大鏡』 「花山天皇の 出家」	歴史物語を読み、登場人物が政治の世界でどのように生きたかを理解する。	敬語法について理解する。	第3 回 考 査	・重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題			
		模擬試験対策	模擬試験での実践力を高める。	模擬試験の過去問題を解く。					
	11	『大鏡』 「道長・伊周 の競射」	道長と伊周の言動から人物像をつかみ、歴史物語を読み味わう。	4年時の用言、助動詞の確認と復習。 敬語法の確認。	第4 回 考 査	・重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題			
	12	「四面楚歌」	英雄項羽の悲壮な最期を、情感あふれる表現と共に読み味わう。	仮定・反語・否定などの句法を本文から理解する。					
		模擬試験対策	模擬試験での実践力を高める。	模擬試験の過去問題を解く。					
	1	『更級日記』 「物語」	日記を読み、作者の心情を読み取る。	内容を順を追ってまとめる。 助動詞「む」について確認する。					
	2	『源氏物語』 「光源氏の誕生」	源氏物語の世界に親しみ、登場人物のものの見方や心情の推移を読み取る。	本文を読み、登場人物の関係を整理する。 敬語法について再確認する。 これまで学んできた助動詞について再確認する。					
	3								
	【課題・提出物等】		ノート（プリント）・問題集・宿題・週末課題・長期休暇課題等						
	【年間を通しての評価方法】		定期考査・教科テスト・課題テスト・小テスト・提出物・授業態度等を総合的に判断して評価する。						
【教科テスト実施予定等】		各長期休暇明けには課題テストを実施する予定。（秋季休業は除く） 教科テストは授業進度による。							

## （2）評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	授業に関心を持って積極的に取り組み、内容の理解・知識の習得に努める。	授業態度・提出物
思考・判断	作品の構成や登場人物の心情等を読み取り、作品の主旨を把握することができる。	考査・発言
技能・表現	様々な表現方法を使った作品を理解することができる。また、それによって生まれた自分の考えを・感想を表現することができる。	考査・発言
知識・理解	古典常識・文語のきまりや訓読のきまりなど、作品を読み取る上で必要な知識を身につける。	考査・小テスト

## （3）評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b> 考査ポイント（70ポイント×4回） 定期考査・教科テスト・課題テストで判断します。
<b>平常点ポイントの具体</b> 平常点ポイント（30ポイント×4回） ノート・問題集・宿題・週末課題・長期休暇課題・小テスト・授業態度で判断します。

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	国語・国語演習	学年・学級	5年・文	単位数	1
--------	---------	-------	------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

<b>【学習目標】</b> 1. 現代文分野では、論理的思考力・記述力を養う。 2. 古典分野では、基礎知識を固め、長文読解ができるようになる。 <b>【履修上の注意】</b> 1. 準備物...ノート・ファイル 2. 前向きな姿勢で取り組むこと。	
使用教科書・副教材等	教材の購入は、随時。 各大学の入試問題等も取り扱う。

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	【現代文分野】	・抽象的な文章を論理的に読む方法を身につける。  ・国公立大学2次試験・中堅以上の私立大学に出題される問題のレベルを知る。	・段落毎に要点を整理し、最初から最後まで論理の展開を追う(精読)。  ・要約文を作る。  ・実際に問題を解いてみる。	第1回考查	要約文・記述式問題
	5	基礎レベル(センター試験よりも平易なレベル)の文章				
前期	6	広島県内の国公立大学の入試問題等				
	7	【古文分野】	・古文読解のための基礎的知識を身に付ける。  ・基礎的知識をもとに、読解の実践に取り組む。	・定着するように、繰り返しドリルする。  ・基礎的知識がどのくらい身に付いているか、自己点検する。 ・弱点を発見し、補強する。	第2回考查	基礎古文単語・助動詞・敬語の
8	古文単語・助動詞・敬語					
	9	基礎レベル(センター試験よりも平易なレベル)の長文				

後 期	10	【漢文分野】 返読・再読文字、基本的な句形	・漢文読解のための基礎的知識を身に付ける。	・定着するように、繰り返しドリルする。	第3回 考查	の返読・再読文字、基本的な句形 基礎
	11	基礎レベル（センター試験よりも平易なレベル）の長文	・基礎的知識をもとに、読解の実践に取り組む。	・基礎的知識がどのくらい身に付いているか、自己点検する。 ・弱点を発見し、補強する。		
	12	【現代文分野】 【古文分野】 【漢文分野】	・現代文は、要点を図式化できるようにする。	・要点を抜粋して図式にするなど、論理的な読解をする。	第4回 考查	に基礎的知識をもと した読解
	1	標準レベルの長文	・基礎的知識をもとに、ややレベルを上げた長文読解の実践に取り組む。	・主語や目的語を補いながら、文章を丁寧に追う。		
		【課題・提出物等】	随時指示します。 プリントが多くなる予定です。書類整理は美しく。			
		【年間を通しての評価方法】	定期考查 提出物 課題 授業態度 以上の4点を総合的に判断して評価する。			
		【教科テスト実施予定等】	しません。			

## (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	授業に積極的に取り組み、内容の理解、習得に努めている。	授業態度・提出物
思考・判断	論理的に文章を読解することができる。	ノート・プリント
技能・表現	記述式問題に対応できる表現力を養う。	考查・要約文作成
知識・理解	読解に必要な基礎的知識を固める。	問題演習・小テスト

## (3) 評定の出し方について

<b>考查ポイントの具体</b> <b>【出題】</b> 授業で行ったことをもとに、応用問題を出題します。 <b>【考查ポイント】</b> 70ポイント×4回
<b>平常点ポイントの具体</b> 30ポイント×4回 提出物 小テスト 授業態度・意欲……それぞれ10ポイントずつ。

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	地歴・日本史B	学年・学級	5年・文系選択者	単位数	4
--------	---------	-------	----------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

日本の歴史を国際的な視野に立って考えさせるとともに、日本の文化と伝統の特徴についての認識を深めさせる。また、これからの国際社会に生きる日本人としての資質を養うことを目標とする。  
また、歴史を考える基礎的な方法を理解させるとともに、地域社会に関係する歴史的な学習を通して、歴史への興味関心を高め、歴史的な見方・考え方を身につけさせる。

使用教科書・副教材等	山川出版社 詳説日本史B(改訂版) 第一学習社 最新 日本史図表 日本史重要語句チェックリスト(啓隆社)
------------	--

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点
前	4	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目して、旧石器文化、縄文文化、弥生文化の時代の社会について理解する。	・石器から土器への道具の進化を中心に、古代人の共同体に生まれた文化について考える。 ・水稻耕作と金属器の伝播によって社会に生じた大きな変化を、中国史書の記述も参考にしながら考える。 ・遺跡や中国史書の記述をもとに、日本に登場した強大な首長の存在について考える。 ・推古朝、大化の改新、天武・持統朝を中心に、日本における中央集権国家建設の動きを	教科テスト	・先土器・縄文・弥生・古墳の各文化の特色と代表的な遺跡(古墳)  ・6~7世紀の中国情勢、推古朝、改新政治、天武・持統朝の政策の内容の理解 ・飛鳥文化・白鳳文化
	5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令の成立	隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、古代国家の展開を理解する。	・奈良時代の政治・社会を中心に、律令に基づく政治の仕組みを理解し、その動揺について考える。		・律令の内容
	6	3 平城京の時代 4 天平文化	天平文化などの古代文化の特色について理解する。	・桓武朝・嵯峨朝を中心に、平安初期の施策の目的が律令体制の再建にあることを理解する。  ・数々の政争を経て藤原氏による権力独占が成立する過程を理解し、一方で起こる地方政治の動揺について考える。 ・中国の影響からはなれて成立した、日本独自の文化としての国風文化について考える。 ・荘園公領制の成立と武士の台頭を、律令体制の崩壊の流れの中に位置づけて考える。	第1回考查	・平城遷都、奈良時代の政争、土地政策の変遷 ・天平文化一般
期	7	5 平安朝廷の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治	荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の動向に着目して、古代国家の推移を理解する。	・桓武朝・嵯峨朝を中心に、平安初期の施策の目的が律令体制の再建にあることを理解する。  ・数々の政争を経て藤原氏による権力独占が成立する過程を理解し、一方で起こる地方政治の動揺について考える。 ・中国の影響からはなれて成立した、日本独自の文化としての国風文化について考える。 ・荘園公領制の成立と武士の台頭を、律令体制の崩壊の流れの中に位置づけて考える。	第2回考查	・桓武・嵯峨朝の施策 ・藤原氏と天皇の関係及び他氏排斥過程 ・有力農民の台頭、国司の変質等
	9	2 国風文化 3 荘園と武士 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭				・国風文化全般 ・寄進地系荘園の構造、武士の反乱 ・後三条天皇の施策、院政の歴史的意義
	10	2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退	初の武家政権の成立過程や性格について理解する  武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかわりに着目して、武家政権の成立過程について理解する。	・公家政権から武家政権への過渡期としての平氏政権の性格について考える。 ・初の武家政権としての鎌倉幕府の性格を朝廷との関係の推移に着目しながら理解する。 ・蒙古襲来をきっかけに顕在化した幕府の矛盾について理解する。	第3回考查	・幕府の構造、御家人体制 ・武士の生活、荘園侵略 ・蒙古襲来の理由、過程 ・幕府衰退の理由

後    期	11	5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭	鎌倉新仏教など文化にみられる新しい気運について理解する。  日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭に着目して、産業経済の発展や下剋上など、中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化とのかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向について理解する。	・民衆宗教としての鎌倉仏教を中心に、世相が文化に与えた影響について考える。 ・南北朝の内乱の原因およびその過程と影響を、当時の武家社会および民衆社会を背景に考える。 ・幕府の構造や権力基盤を理解し、近隣諸国との外交および日本への影響について考える。 ・庶民や国人層の成長を理解し、応仁の乱後の幕府の衰退を端緒とする下剋上の風潮について考える。 ・各地に割拠した戦国大名の施策を通して近世社会につながる新しい動きについて理解	考査	・6つの宗派の概要、芸術 ・建武政権の特徴と矛盾 ・幕府の成立過程と内乱の原因
	12	3 室町文化  4 戦国大名の登場			教科テスト	・諸産業の発達の様子、惣の構造 ・一揆の概要 ・応仁の乱の概要と意義 ・主な戦国大名の名と支配地域と主な施策、分国法
	1	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化	幕藩体制について、成立過程やその特質を織豊政権や対外関係等と結びつけて理解させる。	・ヨーロッパ人のアジア進出の世界史的な背景を知り、西洋文化が日本に与えた影響について考える。 ・信長・秀吉の統一過程と政策について理解する。 ・幕藩体制について、大名・農民・対外施策等の特色・内容・目的を理解する。	第4回考査	・鉄砲、キリスト教伝来の様子 ・信長、秀吉の統一の過程 ・桃山文化、南蛮文化
	2	3 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発達 3 元禄文化	幕政の安定を迎えた背景や経済情勢及びその機構、元禄文化・諸学問の発達について理解させる。	・文治政治への転換の背景を知り、家綱～家継の施政について理解する。 ・諸産業の発達及び日本固有の流通機構について理解する。 ・元禄文化成立の背景・概要について理解と関心をもつ		・江戸幕府成立過程 ・幕藩体制の概要、関係法令等 ・上方を中心とした流通機構、金融、交通等の発達の様子
	3					

## (2) 評定の出し方について

### 考査ポイントの具体

定期考査(100点)を70ポイントとする。

### 平常点ポイントの具体

提出物、課題、授業態度、小テスト点をそれぞれポイントにより評価し、30ポイントとする。

## (3) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	歴史的事象への関心を高め、かつ意欲的に追求しようとする姿勢をもつ。及び日本社会の形成過程を理解し、それを踏まえて国際社会にいかに関与すべきかを模索しようとする。	授業態度、提出物 小テストの取り組み
思考・判断	1つの歴史的事象を単純にとらえず、他の事象との関わり、あるいは地理・文化的要因も踏まえて考察できる。また、グローバルな視点から、その変化の過程も踏まえ、公正に判断できる。	定期考査
技能・表現	歴史的事象に関わる写真・統計・グラフ等の資料、あるいは関係する文献(史料)を収集・読解する方法を学ぶとともに、追求する姿勢を身につけ、その過程で得た結果を表現する。	定期考査
知識・理解	日本社会の形成の歴史的過程、また地域独自の生活・文化の成立過程と特色について、基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	定期考査

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	地歴・地理B	学年・学級	5年・文系選択者	単位数	4
--------	--------	-------	----------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

<p>1 授業の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各国の文化を学び、共通点や違いを理解し、各国の歴史や文化を尊重できる。</li> <li>・地球的な課題や、自然環境、国づくりへの各国の努力を学び、理解を深める。</li> <li>・国際関係の基礎を学び、新聞やニュースで報道される社会の動きに関心を持つ。</li> <li>・地図や統計に示された内容を理解し、これらの資料をうまく活用できる。</li> </ul> <p>2 履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の授業ではノートへの記入とプリントの整理をきちんとすること。 (定期試験の前には必ず提出。また、その他でも提出を求めることがある。)</li> <li>・必要に応じて白地図または配布したプリントで、作業学習などを行う。</li> <li>・日本や世界の地名や重要用語の確認のため、作業や小テストをする。</li> </ul>	
使用教科書・副教材等	新詳地理B(帝国書院)、地図帳(帝国書院)、最新地理図表(第一学習社)、地理統計要覧(二宮書店)(作業用に各自で色鉛筆を用意すること)

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)
前 期	4	地図の利用	地図に親しむ。	地形図をはじめ身近な地図の表現法	第1回 考查	地形図の基礎的な知識を問う。 縮尺と断面図を問う。
	5	交通・通信の発達世界の結びつき	日本と世界の結びつきを、地図を利用して学ぶ。	日本を中心とした交通・通信の結びつき		大地形の種類・分布を問う。 小地形の成り立ち、種類、集落分布を問う。
	6	大地形	地球の成り立ちを知り、ちけいとの関連を学ぶ。	プレート・テクトニクス、大地形、小地形の成因および集落立地や土地利用との関連		日本の地形、日本の気候
前 期	7	日本の自然	日本の自然環境の特色を学ぶ。	日本の地形、日本の気候	第2回 考查	日本の地形、気候区分を問う。
	9	世界の気候	世界の気候変化の要因と気候区分の方法を学ぶ。  世界各国の気候と生活様式の違いを学ぶ。	気候要素・気候因子・気候区分  各気候の特徴と人間生活との関連		世界の気候の特徴、区分を問う。ケッペンの気候を問う。

後 期	10	民族・領土 問題	民族・宗教の広がり を学び、民族問題と の関連に気づく	世界の民族・言語・宗 教、および民族移動と 民族問題、領土問題	第 3 回 考 査	世界の民 族・言語・ 宗教分布を 問う。 特徴と経 営形態を問 う。  諸地域の 地形・工 業・農業を 問う。
	11	世界の農林 水産業	日本や世界の経営形態 を学び、特色や課題を 考える。	農林水産業の特色と課題		
	12	世界の諸地域 世界の諸地域	文化の特徴や経済発展 の過程を学ぶ。 多民族国家の成り立ち を知るとともに、日本 との結びつきを学ぶ。	朝鮮半島  オーストラリア		
	1	世界の諸地域	諸民族の生活・文化を 学ぶ。日本との相違点 や日本とのつながりを 学ぶ。	ASEAN(東南アジア諸国 連合)	第 4 回 考 査	諸地域の 地形・工 業・農業を 問う。 ASEAN・EU の成立と発 展を問う。
2	世界の諸地域	諸民族の生活・文化を 学ぶ。日本との相違点 や日本とのつながりを 学ぶ。 EUの成立と発展を学ぶ。	EU(ヨーロッパ連合)			
【課題・提出物等】			ノート提出(定期考査前)、白地図・プリントの作業(随時) 期限厳守。未提出や内容が良くないものは減点の対象。			
【年間を通しての評価方法】			次のことからを総合的に判断する。 定期考査の成績、課題の提出状況、授業への出席状況、授業への意欲 関心			
【教科テスト実施予定等】						

### (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意 欲・態度	現代世界の地理的事象や諸問題に関心を持ち、意欲的に追求する 態度を持つ。	授業態度 提出物の状況
思考・判断	現代世界の地理的事象を学ぶ中から課題を見出す。自然・歴史 などの背景から、生活・文化の地域的特徴を捉える。	定期考査 授業中の問い
技能・表現	地図や統計、画像などの諸資料の中から、有用な情報を選択し 活用することを通して、地理的事象を追求する力をつける。	定期考査 授業中の問い
知識・理解	現代社会の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方 法を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 授業中の問い

### (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b>  定期考査(100点)を70ポイントとする。
<b>平常点ポイントの具体</b>  提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、30ポイントとする。

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	地歴・地理B	学年・学級	5年・理系	単位数	2
--------	--------	-------	-------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

<p>1 授業の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各国の文化を学び、共通点や違いを理解し、各国の歴史や文化を尊重できる。</li> <li>・地球的な課題や、自然環境、国づくりへの各国の努力を学び、理解を深める。</li> <li>・国際関係の基礎を学び、新聞やニュースで報道される社会の動きに関心を持つ。</li> <li>・地図や統計に示された内容を理解し、これらの資料をうまく活用できる。</li> </ul> <p>2 履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の授業ではノートへの記入とプリントの整理をきちんとすること。 (定期試験の前には必ず提出。また、その他でも提出を求めることがある。)</li> <li>・必要に応じて白地図または配布したプリントで、作業学習などを行う。</li> <li>・日本や世界の地名や重要用語の確認のため、作業や小テストをする。</li> </ul>	
使用教科書・副教材等	新詳地理B(帝国書院)、地図帳(帝国書院)、最新地理図表(第一学習社)、地理統計要覧(二宮書店)(作業用に各自で色鉛筆を用意すること)

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	地図の利用	地図に親しむ。	地形図をはじめ身近な地図の表現法	第1回 考查	地形図の基礎的な知識を問う。 縮尺と断面図を問う。
	5	交通・通信の発達世界の結びつき	日本と世界の結びつきを、地図を利用して学ぶ。	日本を中心とした交通・通信の結びつき		大地形の種類・分布を問う。 小地形の成り立ち、種類、集落分布を問う。
前期	6	大地形	地球の成り立ちを知り、ちけいとの関連を学ぶ。	プレート・テクトニクス、大地形、小地形の成因および集落立地や土地利用との関連	第2回 考查	日本の地形、気候区分を問う。
	7	日本の自然	日本の自然環境の特色を学ぶ。	日本の地形、日本の気候		世界の気候の特徴、区分を問う。ケッペンの気候を問う。
	9	世界の気候	世界の気候変化の要因と気候区分の方法を学ぶ。  世界各国の気候と生活様式の違いを学ぶ。	気候要素・気候因子・気候区分  各気候の特徴と人間生活との関連		

後 期	10	民族・領土 問題	民族・宗教の広がり を学び、民族問題と の関連に気づく	世界の民族・言語・宗 教、および民族移動と 民族問題、領土問題	第 3 回 考 査	世界の民 族・言語・ 宗教分布を 問う。 特徴と経 営形態を問 う。  諸地域の 地形・工 業・農業を 問う。
	11	世界の農林 水産業	日本や世界の経営形態 を学び、特色や課題を 考える。	農林水産業の特色と課題		
	12	世界の諸地域 世界の諸地域	文化の特徴や経済発展 の過程を学ぶ。 多民族国家の成り立ち を知るとともに、日本 との結びつきを学ぶ。	朝鮮半島  オーストラリア		
	1	世界の諸地域	諸民族の生活・文化を 学ぶ。日本との相違点 や日本とのつながりを 学ぶ。	ASEAN(東南アジア諸国 連合)	第 4 回 考 査	諸地域の 地形・工 業・農業を 問う。 ASEAN・EU の成立と発 展を問う。
2	世界の諸地域	諸民族の生活・文化を 学ぶ。日本との相違点 や日本とのつながりを 学ぶ。 EUの成立と発展を学ぶ。	EU(ヨーロッパ連合)			
【課題・提出物等】			ノート提出(定期考査前)、白地図・プリントの作業(随時) 期限厳守。未提出や内容が良くないものは減点の対象。			
【年間を通しての評価方法】			次のことからを総合的に判断する。 定期考査の成績、課題の提出状況、授業への出席状況、授業への意欲 関心			
【教科テスト実施予定等】						

### (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意 欲・態度	現代世界の地理的事象や諸問題に関心を持ち、意欲的に追求する 態度を持つ。	授業態度 提出物の状況
思考・判断	現代世界の地理的事象を学ぶ中から課題を見出す。自然・歴史 などの背景から、生活・文化の地域的特徴を捉える。	定期考査 授業中の問い
技能・表現	地図や統計、画像などの諸資料の中から、有用な情報を選択し 活用することを通して、地理的事象を追求する力をつける。	定期考査 授業中の問い
知識・理解	現代社会の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方 法を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 授業中の問い

### (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b>  定期考査(100点)を70ポイントとする。
<b>平常点ポイントの具体</b>  提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、30ポイントとする。

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	数学・数学	学年・学級	5年・文系	単位数	4
--------	-------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

式と証明・高次方程式、図形と方程式いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。  
 演習内容のレベルが進度とともに上がって来るので、授業の演習内容を何度も復習すること。

使用教科書・副教材等	使用教科書：数学（数研出版） 傍用問題集：クリアー + B（数研出版）、練習ドリル数学（数研出版） 副教材：改訂版チャート式 基礎からの「数学 + B」（数研出版）、短期集中ゼミ数学 + A express（実教出版）
------------	---

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	調査範囲	調査に出題する 要点(合格ライン)	
前 期	4	第2章 複素数と方程式 4. 剰余の定理と因数定理  5. 高次方程式  演習問題	剰余の定理, 因数定理を活用することができる  高次方程式を解くことができる	・定理についての十分な理解を通して, その有用性を深める ・一次方程式, 二次方程式の知識をもとに, より速く正確に式を処理できるようにする	第1回 調査	3次方程式を解くことができる	
	5	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点  2. 平面上の点  3. 直線の方程式 4. 2直線の関係  演習問題	数直線上の点において, 内分・外分, 2点間の距離が求められる  xy平面上において, 内分・外分, 2点間の距離が求められる  直線の方程式を求め活用できる 直線についての位置関係を把握することができる	・数直線上の点において, 2点間の距離, 内分, 外分について求められるようにする ・xy平面上において, 2点間の距離, 内分, 外分について求められるようにする ・直線の方程式の形を理解する ・平行や垂直など, 2直線の位置関係について理解する		内分点, 外分点, 2点間の距離, 直線の方程式の公式を用いることができる	
	6	第2節 円 5. 円の方程式  6. 円と直線  演習問題	円の方程式が求められる  円と直線の関係について考察することができる	・円の方程式を確認し, 活用できるようにする ・直線との位置関係, 円の接線についての理解を深める		条件に応じて, 円の方程式を求めることができる	
	7	第3節 軌跡と領域 7. 軌跡と方程式  8. 不等式の表す領域  演習問題	いろいろな軌跡が求められる  領域が図示できる	・いろいろな軌跡を求め, 論理立てて説明できるようにする ・不等式の性質を理解し, 領域が図示できるようにする		第2回 調査	度数法を弧度法により, 表すことができ, 正弦・余弦・正接の値を求めることができる  三角関数の方程式, 不等式を解くことができる  加法定理, 2倍角の公式, 三角関数の合成を用いることができる
	9	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 一般角と弧度法  2. 三角関数  3. 三角関数の性質  演習問題	三角比の対象の角を一般角まで拡張した場合について理解を深める  一般角まで拡張した場合についての正弦・余弦・正接の値を求め, 相互関係について考察する  周期関数の性質を理解し, 考察することができる	・一般角の値を動径上の点と対比できるようにし, 弧度法について理解する ・正弦・余弦・正接の値を求め, 相互関係を用いることができるようにする ・周期関数の性質について理解し, 考察する			
	10	第2節 加法定理 6. 加法定理  7. 加法定理の応用  8. $a\sin + b\cos$ の変形	加法定理について理解し, 活用することができる  2倍角の公式・半角の公式を扱うことができ, 問題解決に活用できる  三角関数の合成をし問題解決に活用できる	・いろいろな公式を使えるようになる. 特に加法定理の公式は重要である。 ・2倍角の公式・半角の公式を扱うことができ, 問題解決に活用できるようにする 三角関数の合成をし問題解決に活用できるようにする			
	10	第5章 指数関数・対数関数 1. 指数の拡張  2. 指数関数	指数の拡張とその有用性について理解し, 指数の計算ができる  グラフが描くことができ, 方程式と不等式を解くことができ, 最大値・最小値が求められる	・指数の計算が確実にできるようにする ・指数関数のグラフの形・特徴ともに理解する ・指数の入った方程式や不等式の問題演習をする			

後 期	3. 対数とその性質	対数を定義し、その意味を理解することができる	・対数の性質についての理解を深め、計算できるようにする	3 回 考 査	指数・対数の方程式と不等式を解くことができる	
	4. 対数関数	対数関数の性質を理解できる	・対数関数のグラフの形・特徴ともに理解する。 ・対数の入った方程式や不等式の問題演習をする。			
	5. 常用対数	常用対数の意味が理解でき、桁数、小数第何位の問題が求められる	・常用対数の意味が理解でき、桁数、小数第何位の問題が求められるようにする			
	演習問題					
	第6章 微分と積分					
	12	第1節 微分係数と導関数	微分係数の定義がわかる 関数の微分ができる 導関数と接線の関係について考察や活用ができる	・平均変化率の意味を理解する ・導関数の定義を理解する ・接線の方程式を導く	第 4 回 考 査	導関数を求めることができる  接線の方程式を求めることができる  3次関数のグラフを描くことができる  積分の計算ができる  積分を利用して、面積を求めることができる
	1	1. 微分係数				
		2. 導関数				
		3. 接線				
		4. 関数の増減と極大・極小	増減表、グラフを描くことができる	・微分を用いて関数の増減を調べ、グラフの概形がかけられるようにする ・そのグラフを利用して様々な問題が解けるようにする		
		5. 最大値・最小値	増減表、グラフを描くことができ、変域に応じて最大値・最小値を求めることができる	・増減表、グラフを描くことができ、変域に応じて最大値・最小値を求める		
	6. 関数のグラフと方程式・不等式	極値とグラフを増減表と関連させて考察できる	・微分・積分を利用し、問題をグラフや式など様々な面から総合的に解決する力をつける			
	演習問題					
	第3節 積分法					
1	7. 不定積分	不定積分が求められる	・不定積分を定義し、計算ができるようにし、図形的な意味についても理解する			
	8. 定積分	定積分が求められる	・定積分を定義し、計算ができるようにし、図形的な意味についても理解する			
	9. 面積	面積の計算に定積分を活用できる	・さまざまな図形に関して、面積の計算ができるようにする			
	演習問題					
2	総合問題演習					
	数学 A	数学 A で学習した内容について問題を精選し、演習を行う	・数学 A で学習した内容について、振り返り、苦手分野を克服する			
【課題・提出物等】		毎日課題（提出）、各長期休業中の課題(提出) 各定期考査毎、ノート提出				
【年間を通しての評価方法】		定期考査、課題テスト、課題及び授業ノート等の提出物、授業に取り組む姿勢、出欠状況等を総合的に判断する。				

## (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	・数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度が育っているか。	授業中の発言・態度、家庭学習・小テスト・宿題など
思考・判断	・事象を数理的に考察する能力が高まっているかどうか。	定期考査
技能・表現	・数学的な表現・処理の仕方を習得しているか。	教科テスト
知識・理解	・数量、図形などに関する基本的な概念や原理・法則の理解が深まっているか。	課題テスト

## (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b>
定期考査および課題考査、教科考査の点数で評価する。(授業時の小テストは除く)
<b>平常点ポイントの具体</b>
提出物...ノートやプリントの有無や内容を総合的に判断して評価する
授業態度...居眠り、私語等の授業を受けるにふさわしくないと判断される行為について減点する
その他...小テスト等の授業中の活動についても評価する

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	数学・数学	学年・学級	5年・理系	単位数	5
--------	-------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

式と証明・高次方程式、図形と方程式いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。  
 演習内容のレベルが進度とともに上がって来るので、授業の演習内容を何度も復習すること。

使用教科書・副教材等	使用教科書：数学（数研出版） 傍用問題集：クリアー + B、 + C（数研出版）、練習ドリル数学（数研出版） 副教材：改訂版チャート式 基礎からの「数学 + B」（数研出版）、短期集中ゼミ数学 + A express（実教出版）
------------	--

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	審査 範囲	審査に出題する要 点 (合格ライン)	
前 期	4	第2章 複素数と方程式 4. 剰余の定理と因数定理  5. 高次方程式  演習問題	剰余の定理，因数定理を活用することができる  高次方程式を解くことができる	・定理についての十分な理解を通して，その有用性を深める ・一次方程式，二次方程式の知識をもとに，より速く正確に式を処理できるようにする	第1回 審査	3次方程式を解くことができる	
	5	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点  2. 平面上の点  3. 直線の方程式 4. 2直線の関係  演習問題 第2節 円 5. 円の方程式	数直線上の点において，内分・外分，2点間の距離が求められる  xy平面上において，内分・外分，2点間の距離が求められる  直線の方程式を求め活用できる 直線についての位置関係を把握することができる	・数直線上の点において，2点間の距離，内分，外分について求められるようにする ・xy平面上において，2点間の距離，内分，外分について求められるようにする ・直線の方程式の形を理解する ・平行や垂直など，2直線の位置関係について理解する		内分点，外分点，2点間の距離，直線の方程式の公式を用いることができる	
	6	6. 円と直線  演習問題 第3節 軌跡と領域 7. 軌跡と方程式  8. 不等式の表す領域  演習問題	円と直線の関係について考察することができる  いろいろな軌跡が求められる  領域が図示できる	・直線との位置関係，円の接線についての理解を深める ・いろいろな軌跡を求め，論理立てて説明できるようにする ・不等式の性質を理解し，領域が図示できるようにしよう		条件に応じて，円の方程式を求めることができる	
	7	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 一般角と弧度法  2. 三角関数  3. 三角関数の性質  4. 三角関数とそのグラフ  5. 三角関数の応用  演習問題 第2節 加法定理 6. 加法定理  7. 加法定理の応用  8. $a\sin + b\cos$ の変形	三角比の対象の角を一般角まで拡張した場合について理解を深める  一般角まで拡張した場合についての正弦・余弦・正接の値を求め，相互関係について考察する  周期関数の性質を理解し，考察することができる  グラフを表示し，考察に活用することができる  三角関数の方程式と不等式を解くことができる	・一般角の値を動径上の点と対比できるようにし，弧度法について理解する ・正弦・余弦・正接の値を求め，相互関係を用いることができるようにする ・周期関数の性質について理解し，考察する ・三角関数のグラフを描き，問題練習を通して，有効な活用を身につける ・三角関数の方程式と不等式を解くことができるようにする		三角関数の方程式，不等式を解くことができる	
	9	第5章 指数関数・対数関数 1. 指数の拡張  2. 指数関数	指数の拡張とその有用性について理解し，指数の計算ができる  グラフが描くことができ，方程式と不等式を解くことができ，最大値・最小値が求められる	・指数の計算が確実にできるようにする ・指数関数のグラフの形・特徴ともに理解する ・指数の入った方程式や不等式の問題演習する		第2回 審査	加法定理，2倍角の公式，三角関数の合成を用いることができる  指数法則を用いた計算ができる

		3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 演習問題	対数を定義し、その意味を理解することができる 対数関数の性質を理解できる 常用対数の意味が理解でき、桁数、小数第何位の問題が求められる	・対数の性質についての理解を深め、計算できるようにする ・対数関数のグラフの形・特徴とともに理解する。 ・対数の入った方程式や不等式の問題演習をする ・常用対数の意味が理解でき、桁数、小数第何位の問題が求められるようにする	指数・対数の方程式と不等式を解くことができる
後 期	10	第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数 3. 接線 4. 関数の増減と極大・極小	微分係数の定義がわかる 関数の微分ができる 導関数と接線の関係について考察や活用ができる 増減表、グラフを描くことができる	・平均変化率の意味を理解する ・導関数の定義を理解する ・接線の方程式を導く ・微分を用いて関数の増減を調べ、グラフの概形がかけられるようにする ・そのグラフを利用して様々な問題が解けるようにする	導関数を求めることができる 接線の方程式を求めることができる
	11	5. 最大値・最小値 6. 関数のグラフと方程式・不等式 演習問題 第3節 積分法 7. 不定積分 8. 定積分	増減表、グラフを描くことができ、変域に応じて最大値・最小値を求めることができる 極値とグラフを増減表と関連させて考察できる 不定積分が求められる 定積分が求められる	・増減表、グラフを描くことができ、変域に応じて最大値・最小値を求める ・微分・積分を利用し、問題をグラフや式など様々な面から総合的に解決する力をつける ・不定積分を定義し、計算ができるようにし、図形的な意味についても理解する ・定積分を定義し、計算ができるようにし、図形的な意味についても理解する	3次関数のグラフを描くことができる 積分の計算ができる 積分を利用して、面積を求めることができる
	12	9. 面積 演習問題	面積の計算に定積分を活用できる	・さまざまな図形に関して、面積の計算ができるようにする	
	1	第1章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 第2章 極限 1. 数列の極限	分数関数のグラフをかくことができる 無理関数のグラフをかくことができる 逆関数と合成関数の性質を理解し、式を求めることができる 無限大の考え方を理解し、極限値を求めることができる	漸近線を求めてグラフの概形がかけられるようになる グラフを利用して方程式・不等式が解けるようになる 定義域・値域を理解することが出来る 公比によって極限が変化することを理解する	グラフがかけられる方程式・不等式が解ける 極限値を求めることができる
【課題・提出物等】		毎日課題（提出）、各長期休業中の課題（提出） 各定期考査毎、ノート提出			
【年間を通しての評価方法】		定期考査、課題テスト、課題及び授業ノート等の提出物、授業に取り組む姿勢、出欠状況等を総合的に判断する。			

## (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	・数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度が育っているか。	授業中の発言・態度、家庭学習・小テスト・宿題など
思考・判断	・事象を数理的に考察する能力が高まっているかどうか。	定期考査
技能・表現	・数学的な表現・処理の仕方を習得しているか。	教科テスト
知識・理解	・数量、図形などに関する基本的な概念や原理・法則の理解が深まっているか。	課題テスト

## (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b> 定期考査および課題考査、教科考査の点数で評価する。(授業時の小テストは除く)
<b>平常点ポイントの具体</b> 提出物...ノートやプリントの有無や内容を総合的に判断して評価する 授業態度...居眠り、私語等の授業を受けるにふさわしくないと判断される行為について減点する その他...小テスト等の授業中の活動についても評価する

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	数学・数学B	学年・学級	5年・全類型	単位数	文系 類 3 他類型 2
--------	--------	-------	--------	-----	-----------------

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

ベクトルの「大きさと向きをもつ量」や数列の階差・漸化式・数学的帰納法など従来までとは違った内容を取り扱います。練習を繰り返し取り扱いに慣れていこう。

使用教科書・副教材等	使用教科書：数学B（数研出版） 傍用問題集：クリアー + B（数研出版）、練習ドリル数学B（数研出版） 副教材：改訂版チャート式 基礎からの「数学 + B」（数研出版）、短期集中ゼミ数学 + A express（実教出版）
------------	---

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)		
前 期	4	<b>第1章 ベクトル</b>			第1回 考查			
		<b>1. 平面上のベクトルとその演算</b>						
		1. 平面上のベクトル	ベクトルは大きさや向きという2つの量をまとめて1つのものとして取り扱えるもので、その演算は簡単な法則に従い出来る事を理解する。	有向線分を用いて表される平面上のベクトルの意味を理解しベクトルの演算が出来るようになる。			記号の意味を理解し、使用できる。	
		2. ベクトルの演算	ベクトルの意味を理解し加法、減法、実数倍の意味をこれまで学習してきた演算と対応して考える。	ベクトルの実数倍について、結合法則、分配法則が成り立つ事を理解する。			ベクトルの演算を図で示すことができる。	
		3. ベクトルの成分	ベクトルは基本ベクトルを使い成分表示出来る事を学ぶ。	ベクトルの成分を導く過程を理解し、成分の意味を理解する。			成分を使用した演算ができる。	
		5	4. ベクトルの内積	ベクトルの内積の意味と基本性質について理解する。			ベクトルの内積の定義について、理解しよう。	内積の計算とそれを利用した問題ができる。
			<b>2. ベクトルと平面図形</b>					
	6	5. 位置ベクトル	位置ベクトルの意味を理解する。	内分点、外分点の位置ベクトルを求める公式を導き、それらを活用する。	内分点と外分点の位置ベクトルを表すことができる。			
		6. ベクトル方程式	ベクトル方程式について理解すると共に直線の媒介変数表示について理解する。	2点を通る直線のベクトル方程式の意味を理解する。	直線と円のベクトル方程式を求めることができる。			
		7. ベクトルの応用	内積を利用し図形の性質を考える。	ベクトルの内積を利用し平面図形の性質を証明してみる。	図形の性質を導くことができる。			
		7	<b>第2章 空間のベクトル</b>			第2回 考查		
			1. 空間の基本図形	基本的な立体図形について理解する。	立体図形の性質について理解する。			位置関係と用語を理解して使用できる。
			2. 空間の座標	空間上の座標の表し方について理解する。	座標平面の構成、関連する用語の意味、座標から作図が出来るようになる。			座標を表すことができ、2点間の距離を求めることができる。
			3. 空間のベクトル	平面上のベクトルと対比させながら学習する。	空間のベクトルは、適当な実数を用いて表す事ができる事を理解する。			空間のベクトルを他のベクトルを用いて表すことができる。
4. ベクトルの成分	空間ベクトルの和と差、実数倍の定義も、平面の場合と同じである。		空間におけるベクトルの和、差、実数倍の成分表示を理解する。	成分を使用した演算ができる。				
9	5. ベクトルの内積		空間図形におけるベクトルの内積・ベクトルの垂直条件を理解する	空間におけるベクトルの内積が平面上の内積と同様に扱える事に気づく。	内積の計算ができる。			
	6. 位置ベクトル	空間における位置ベクトル平面上における位置ベクトルについて理解する。	空間における位置ベクトルについて理解する。	空間図形の性質を証明することができる。				
	7. ベクトルの応用	ベクトル方程式を空間に適用することを理解する。	空間における3点で定まる平面上のベクトルの表し方を確認する。	ベクトルの種々の性質を利用して解決することができる。				
10	8. 座標空間における図形	2点間の距離と内分点・外分点の座標、平行な平面の方程式、球の方程式を理解する。	2点間の距離と内分点・外分点の座標の公式を導き出し、演習問題をやる。	球面の方程式を利用できる。				

後 期	11	第3章 数列		第3回 考 査		
		1. 数列とその和				
		1. 数列	正の奇数を小さい順に並べると、1, 3, 5, ……のような列ができる。ここでは、数を一列に並べたものを考えてみる。		数列という用語の意味を理解する。	用語の意味を理解し、使用できる。
		2. 等差数列とその和	等差数列の意味を理解する。		等差数列の公式を使って種々の問題の解を求めてみる。	一般項と和を求めることができる。
	3. 等比数列とその和	等比数列の意味を理解する。	等比数列の公式を使って種々の問題の解を求めてみる。		一般項と和を求めることができる。	
	4. 種々の数列	階差数列の意味を理解し、いろいろな数列の一般項を求めるために、階差数列を利用することが有効である事を知る。	与えられた数列の階差数列をつくり、その和を利用して、元の数列の一般項を求める方法を学習する。		階差数列を利用して元の数列を求めることができる。	
12	2. 数学的帰納法		第4回 考 査			
	5. 漸化式と数列	漸化式の意味を理解する。		等差数列・等比数列の漸化式から一般項を求める。	和の記号を使用して計算できる。	
	6. 数学的帰納法	数列の帰納的定義の意味を理解し、簡単な漸化式から一般項を求める。		階差数列の漸化式から一般項を求める。	漸化式から一般項を求めることができる。	
1	総合演習問題		第4回 考 査			
2	数学 A B					
3						
【課題・提出物等】		各長期休業中の課題(提出)、毎日課題(提出) 各定期考査毎、ノート提出				
【年間を通しての評価方法】		定期考査, 課題テスト, 課題及び授業ノート等の提出物, 授業に取り組む姿勢, 出欠状況等を総合的に判断する。				

## (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	・数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度が育っているか。	授業中の発言・態度、家庭学習・小テスト・宿題等
考え方	・事象を数理的に考察する能力が高まっているかどうか。	定期考査
表現・処理	・数学的な表現・処理の仕方を習得しているか。	教科テスト
知識・理解	・数量、図形などに関する基本的な概念や原理・法則の理解が深まっているか。	課題テスト

## (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b> 定期考査および課題考査、教科考査の点数で評価する。(授業時の小テストは除く)
<b>平常点ポイントの具体</b> 提出物...ノートやプリントの有無や内容を総合的に判断して評価する 授業態度...居眠り、私語等の授業を受けるにふさわしくないと判断される行為について減点する その他...小テスト等の授業中の活動についても評価する

## 3 担当者からのメッセージ

数学Bでは主に「ベクトル」、「数列」という内容を学習します。 「ベクトル」は大きさと向きを併せ持つという優れたものです。学習当初は、今まで皆さんが学習してきた数学と比べると「ちょっと違うぞ」という点がたくさん出てくるかもしれませんが、でも、それに怖じけずいて、逃げ出しはいけません。最後までしっかり学習した後は、きっと皆さんの中に新しい世界が構築されているはずです。 「数列」は「離散数学」という数学の分野の中の一項目で、最初は簡単なパズルを解くような感覚で取り組むことができる内容です。将来的には「微分・積分」という分野にまで発展する内容です。その基礎的な内容をしっかり学びましょう。
---

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	理科・物理	学科・学年・学級	5年・理系	単位数	4
--------	-------	----------	-------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

物理に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な自然観を育てる。また，実験などを通じて科学的探究の方法を学び，自然現象とその応用に向けての興味・関心を高める。

使用教科書・副教材等  
 第一学習社 高等学校 物理  
 第一学習社 セミナー物理 +

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する 要点(合格ライン)
前期	4	運動の表し方	・物体の運動を数式やグラフを用いて表す方法を身につける。	・速度と加速度 ・等速直線運動 ・等加速度直線運動 ・落体の運動	第1回 考查	授業で展開する内容と，指定された問題集および補足するプリントを十分に学習してください。 公式や概念の理解をみる基本問題を約30点分，それらを様々な物理系に適用できるかをみる基礎問題を約70点分の配分で出題します。 全体のレベルはセンター試験またはそれをやや超えるあたりに設定します。
	5	いろいろな力とそのつり合い	・様々な力を理解する。 ・力の合成と分解の方法を知る。 ・具体的な素材について力のつり合いの式が立てられるようになる。 ・力のモーメントを理解する。	・張力，弾性力，浮力，摩擦力など。 ・力の作図とつり合いの式。 ・大きさのある物体のつり合い。		
		運動の法則	・運動の3法則を理解する。 ・運動方程式の立て方を習得する。	・慣性の法則 ・運動の法則 ・作用反作用の法則 ・いろいろな物体の運動		
	6	仕事と力学的エネルギー	・力のする仕事と表し方を理解する。 ・力学的エネルギーと仕事のつながりを理解する。 ・力学的エネルギー保存則の使い方を習得する。	・力のする仕事。 ・運動エネルギー，重力による位置エネルギー，弾性力による位置エネルギー。 ・エネルギーの原理。 ・力学的エネルギー保存の法則。	第2回 考查	
	7	熱とエネルギー	・比熱を理解し，熱量保存の式を立てられるようにする。	・比熱，熱容量，熱平衡 ・熱量保存。		

後 期	9	電気とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>電流の意味を理解する。</li> <li>簡単な電気回路を取り扱えるようになる。</li> <li>電力と電気回路でのエネルギー収支を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オームの法則。</li> <li>抵抗の接続。</li> <li>非線形抵抗。</li> <li>電流と仕事。</li> <li>電力とジュール熱。</li> </ul>	第3回 考査	何よりも授業の内容を再現できるまでに理解することが大切です。その上で問題集やプリントには通り一遍の学習ではなく複数回解く覚悟で臨んでください。
	10	電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> <li>電流によって磁場が生じることを知る。</li> <li>電流が磁場の中で受ける力を理解する。</li> <li>電場と磁場のエネルギーを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>右ねじの法則。</li> <li>電磁力。</li> <li>電磁誘導。</li> <li>モーターと発電機。</li> <li>電磁波。</li> </ul>		
	11					
	12				第4回 考査	
	1	波の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>波動の伝わり方とその表し方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>波のグラフ。</li> <li>重ね合わせの原理。</li> <li>定常波。</li> <li>波の反射，屈折，回折，干渉。</li> </ul>		
	2	音波	<ul style="list-style-type: none"> <li>音波が縦波であることを理解する。</li> <li>ドップラー効果の原因を理解し，具体的な事象へ適用できるようになる</li> <li>弦と気柱の固有振動を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音速と音の3要素。</li> <li>ドップラー効果。</li> <li>弦の固有振動。</li> <li>気柱の固有振動。</li> </ul>		
	3	光波	<ul style="list-style-type: none"> <li>光が横波であることを理解する。</li> <li>反射，屈折の法則を適用できるようになる。</li> <li>光の干渉を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>光の速さ。</li> <li>偏光，反射，屈折。</li> <li>レンズ。</li> <li>スペクトルと分散。</li> <li>光の干渉。</li> </ul>		
【課題・提出物等】			<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中のノート，プリント</li> <li>実験レポート</li> </ul>			
【年間を通しての評価方法】			課題およびノートの提出状況，授業に対する意欲・態度，実験活動への取り組み方，各学期ごとの定期考査，これらを総合して評価します。			

## (2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	物理現象について関心があり，授業・実験に意欲に参加することができる。	ノート，プリント，レポート 授業態度
思考・判断	原理・法則などを個々の事象に的確に適用し，現象や構造を論理的に説明することができたり，問題を解決することができる。	定期考査 ノート，プリント，レポート
技能・表現	観察・実験に対するの技能を習得し，また科学的に探求する方法と態度を身につけている。	レポート 実験態度
知識・理解	事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し知識を身に付けている。	定期考査 ノート，プリント，レポート

## (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b> 定期考査(100点)を70ポイントとする。
<b>平常点ポイントの具体</b> 提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、30ポイントとする。

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	理科・化学	学年・学級	5年・理系	単位数	3
--------	-------	-------	-------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

授業については2年次で化学を選択した生徒に対して行う。  
 前期(4月～9月)：酸化還元、電池、電気分解、周期表と元素の分類、周期表と単体の性質、非金属元素の性質などについて学習する。  
 後期(10月～3月)：金属元素の性質、有機化合物の特徴、有機化合物の構造と分類などについて学習する。

使用教科書・副教材等	教科書 問題集	高等学校 化学 セミナー化学 +	第一学習社 第一学習社
------------	------------	---------------------	----------------

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考査範囲	考査に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	1. 物質の変化 (1)物質の変化と熱の出入り	熱量の計算ができる。 熱化学方程式が書ける。 観察・実験における一般的な注意及び危険防止の注意(安全計)	反応熱と熱化学方程式 ヘスの法則	第1回考査	・教科書の問い ・章末問題 ・問題集の問い
	5	(2)酸と塩基の反応	酸と塩基の定義を理解する。 水素イオン濃度や中和滴定の計算問題が解ける。 塩の性質を理解する。 酸性雨などのしくみと環境問題	酸と塩基 水素イオン濃度 中和反応と塩 中和滴定		
	7	(3)酸化還元反応	酸化数のルールを理解する。 酸化剤と還元剤のイオン反応式や化学反応式が書ける。 電池や電気分解のしくみを理解する。	酸化と還元 酸化数 酸化剤還元剤の反応 イオン化傾向 電池 電気分解	第2回考査	・教科書の問い ・章末問題 ・問題集の問い
	9					
後期	10	2. 無機物質 (1)非金属の単体と化合物	無機物質の性質の正しい理解(安全計画) 周期表にもとづいて元素の性質について理解する。 非金属元素が周期表の右上に位置している理由や単体および化合物の性質を理解する。	元素の分類と性質 水素・酸素とその化合物 希ガス ハロゲンとその化合物 硫黄とその化合物 窒素・リンとその化合物 炭素・ケイ素とその化合物	第3回考査	・教科書の問い ・章末問題 ・問題集の問い
	11	(2)典型元素の単体と化合物	典型金属元素について単体や化合物の性質、検出方法、製法、用途を学習する。	アルカリ金属とその化合物 アルカリ土類金属とその化合物 亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物		
		(3)遷移元素の単体とその化合物	遷移金属元素について単体や化合物の性質、検出方法、製法、用途を学習する。	遷移元素とその化合物 金属の単体の反応性 金属イオンの定性分析		

後 期	12	3.有機化合物 (1)有機化合物の 特徴と構造	有機物質の性質の正しい理解(安全計画) 炭素の化合物の特徴と分類、精 製や元素の確認の方法、分子式 の導き方や原子のつながりにつ いて学習する。	特徴と分類 化学式の決定	第 4 回 考 査	・教科書の問 い ・章末問題 ・問題集の問 い
	1	(2)脂肪族炭化水 素	脂肪族炭化水素の分類、製法、 性質、反応について学習する。	アルカンとシクロアルカン アルケンとアルキン		
	2	(3)酸素を含む脂 肪族化合物	酸素を含む脂肪族炭化水素の性 質、分類、相互関係を学習す る。 動植物の油脂やセッケンの構造 と性質を学習する。	アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル 油脂とセッケン		
	3	(4)芳香族化合物	ベンゼンの構造をもち、さらに 酸素や窒素を構成元素とする化 合物について学習する。	芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物		
【課題・提出物等】		ノート、プリント				
【年間を通しての評価方法】		定期考査、提出物(実験レポートを含む)、授業態度、出欠席状況等				
【教科テスト実施予定等】		第1回教科テスト・夏課題テスト・第3回教科テストを実施する予定				

### (2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意 欲・態度	各テーマについて興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めているか。これらをノート・プリント・定期テストおよび授業態度から評価する。	ノート・プリント・レポート、学習活動への参加の仕方 や態度などから評価する。
思考・判断	化学的事象について疑問を持ち、問題点をきちんと把握できるか。またその問題点の解決方法を思いつくか。これらをノート、プリント、定期テストから評価する。	定期考査、レポートな どから評価する。
技能・表現	実験・観察の技能を習得しているか。その結果をグラフや図などにしてわかりやすく表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、定期テストを通して評価する。	実験での取り組み、レ ポートなどから評価す る。
知識・理解	事物、現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを定期テスト、プリント、ノートを通して評価する。	定期考査、レポートな どから評価する。

### (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイント</b> 100ポイントのうち、定期考査(100点)を70ポイントとする。
<b>平常点ポイント</b> 100ポイントのうち、提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、30ポイントとする。

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	理科・生物	学年・学級	5年・文系	単位数	3
--------	-------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

多種多様な生物現象についての観察・実験などを行い、それらの探求活動を通して、生物や生物現象に関して探求する力をつけていく。  
自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を主体的に見出し、それを解決する力をつける。

使用教科書・副教材等  
教科書：高等学校 生物 第一学習社 資料集：ダイナミックワイド図説生物 総合版 東京書籍  
問題集：セミナー生物 第一学習社

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查での ポイント
前期	4	第1章 細胞 生命の単位—細胞			第一回 考查	細胞に関する基礎的な知識(フック、シュライデン、シュワンの発見した内容や各細胞小器官名とその働き)を問います。 ミクロメーターを用いた細胞計測を計算できるようにしておくこと。 細胞膜と浸透圧の関係をグラフから読みとれるように。
	5	細胞の機能と構造	細胞の大きさの概要および長さの単位を理解しよう。  細胞および細胞小器官の構造や働きを理解しよう。  触媒としての酵素を理解しよう。	観察：いろいろな細胞の観察  観察：原形質流動  実験：カタラーゼの働き		
		細胞への物質の透過	能動輸送と受動輸送の違い、また浸透圧を理解しよう。	実験：植物細胞と浸透		
	6	細胞の増殖と分化	体細胞分裂と組織の形成について理解しよう。	観察：体細胞分裂の観察	第二回 考查	体細胞分裂の順番を図から読みとれるように。また、各分裂期の特徴をしっかりと理解しておくこと。 動植物の組織にはどのようなものがあるのか具体的に理解しておくように。 減数分裂の特徴を体細胞分裂の違いを含めてしっかりと理解しておくこと。
	7	第2章 生殖と発生	未分化と分化の違い・組織・器官・個体の構成を理解しよう。	観察：植物の組織・器官		
	9	生殖	有性生殖と無性生殖について学ぶ。  減数分裂の過程、生殖細胞の形成と染色体の組み合わせを理解しよう。	観察：減数分裂の観察		

後 期	10	有性生殖の過程	動物の配偶子形成。被子植物の生殖と発生。		第三 回 考 査	動植物の配偶子ができる過程をよく理解しておくこと。 胚発生の各段階を整理して、順番や名称が答えられるように。
	11	発生とそのしくみ	ウニとカエルの発生過程を理解する。	観察：ウニの発生		
	12	第3章 遺伝				
	1	遺伝の法則	・一遺伝子雑種、二遺伝子雑種の扱い方を徹底し、いろいろな遺伝現象について問題が解けるようにする。	観察：トウモロコシの遺伝	第四 回 考 査	遺伝の基礎的用語を理解する。 一遺伝子雑種は基礎の基礎となる。しっかり確認せよ。 いろいろな遺伝パターンを反復練習してマスターしておくこと。
	2	遺伝子と染色体	・伴性遺伝・連鎖・組みかえを遺伝子を用いて説明できるようにする。	観察：唾腺染色体		
	3	遺伝子の本体	・遺伝子の本体はDNAであることを理解しよう。	遺伝子本体の究明  実験：伴性遺伝		
	【課題・提出物等】			実験レポート 授業ノート 問題集ノート		
【年間を通しての評価方法】			定期考査 小テスト 実験レポート 授業ノート 問題集ノートを総合的に判断し、評価していく。			

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	・身近な自然現象に興味・関心をもち、積極的に授業へ参加しているかどうか 到達目標：班別実験など積極的に参加し、丁寧なレポートを作成する。また、授業に関わる提出物などは完璧に提出する。	授業態度の観察 ノート・課題の提出状況 授業中の発言や授業後の質問等
思考・判断	・事実に基づいて科学的に判断する力がみについているかどうか 到達目標：定期考査・小テストが満点である。レポートの内容がよい。	考査点 レポートの内容
技能・表現	・観察・実験に必要な基本的な技能が身についているかどうか 到達目標：実験観察を積極的に行い、わかりやすいレポートをまとめる。	実験・観察がうまくできているかどうか レポートの内容
知識・理解	・自然に対する基本的な概念や原理・法則を理解し、基本知識が身に付いているかどうか 到達目標：定期考査・小テストが満点である。レポートの内容がよい。	考査点 小テスト

(3) 評定の出し方について

考査	定期考査(100点満点)を実施し、それを7割りとする。
平常点	態度、提出物、実験レポート、スケッチ、課題をそれぞれ評価し、3割とする。

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	理科・生物	学年・学級	5年・理系	単位数	4
--------	-------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

多種多様な生物現象についての観察・実験などを行い、それらの探求活動を通して、生物や生物現象に関して探求する力をつけていく。  
自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を主体的に見出し、それを解決する力をつける。

使用教科書・副教材等 教科書：高等学校 生物 第一学習社 資料集：ダイナミックワイド図説生物 総合版 東京書籍  
問題集：セミナー生物 第一学習社 実験書：生物実験書 第一学習社

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查での ポイント		
前期	4	第1章 細胞 生命の単位—細胞 細胞の機能と構造	細胞の大きさの概要および長さの単位を理解しよう。 細胞および細胞小器官の構造や働きを理解しよう。 触媒としての酵素を理解しよう。	観察：いろいろな細胞の観察 観察：原形質流動 実験：カタラーゼの働き	第一回 考查	細胞に関する基礎的な知識を問う。 マイクロメーターを用いた細胞計測を計算できるようにしておくこと。 細胞膜と浸透圧の関係をグラフから読みとれるように。 体細胞分裂の順番を図から読みとれるように。また、各分裂期の特徴をしっかりと理解しておくこと。 動植物の組織にはどのようなものがあるのか具体的に理解しておくように。		
		5	細胞への物質の透過	能動輸送と受動輸送の違い、また浸透圧を理解しよう。 実験：植物細胞と浸透				
	6	細胞の増殖と分化	体細胞分裂と組織の形成について理解しよう。 観察：体細胞分裂の観察					
		第2章 生殖と発生	未分化と分化の違い・組織・器官・個体の構成を理解しよう。 観察：植物の組織・器官					
	7	生殖	有性生殖と無性生殖について学ぶ。 減数分裂の過程、生殖細胞の形成と染色体の組み合わせを理解しよう。 観察：減数分裂の観察	第二回 考查			減数分裂の特徴を体細胞分裂の違いを含めてしっかりと理解しておくこと。 動植物の配偶子ができる過程をよく理解しておくこと。 胚発生の各段階を整理して、順番や名称が答えられるように。	
		8	有性生殖の過程					動物の配偶子形成。被子植物の生殖と発生。
		9	発生とそのしくみ					ウニとカエルの発生過程を理解する。 観察：ウニの発生

後期	10	第3章 遺伝			第三回 考查	遺伝の基礎的 用語を理解す る。 一遺伝子雑種 は基礎の基礎と なる。しっかり 確認せよ。 いろんな遺伝 パターンを反復 練習してマス ターしておくこ と。
	11	遺伝の法則	・一遺伝子雑種、二遺伝子雑種の扱 い方を徹底し、いろいろな遺伝現象 について問題が解けるようにする。	観察：トウモロコシの遺伝		
		遺伝子と染色体	・伴性遺伝・連鎖・組みかえを遺 伝子を用いて説明できるようにす る。	観察：唾腺染色体		
	12	遺伝子の本体	・遺伝子の本体はDNAであることを 理解しよう。	遺伝子本体の究明 実験：伴性遺伝		
	1	第4章 環境と動物の反応			第四回 考查	眼と耳の構造とし くみについて刺激の 伝わる経路および受 容のしくみについて 理解を深 めること。 神経系の働きや伝 達速度の計算方法を 理解すること。 筋肉の収縮するし くみを理解するこ と。 ホルモンの名称と 働き、分泌される器 官を関連づけて学習 しておく。 腎臓の再吸収や酸 素解離曲線などの 計算問題を必ず押さ えておくこと。
		刺激の受容と動物の反応	・いろいろな受容器について構造 と しくみを理解する ・効果器としての筋肉の構造とし く	実験：人の眼の盲斑		
	2	神経系				
		動物の行動	・生得的な行動として本能を取り上 げ、イトヨの求愛行動を例に鍵刺激 によって本能が引き起こされるしくみを 理解する	・動物の行動		
	3	体液とその恒常性	内部環境としての体液が体内の恒常 性を保っていることを理解する。	・内部環境としての体液 ・恒常性を保つしくみ ・実験 ソウリムシの浸透 圧調節 ・観察 血球の観察		
	【課題・提出物等】		実験レポート 授業ノート 問題集ノート			
【年間を通しての評価方法】		定期考查 小テスト 実験レポート 授業ノート 問題集ノートを総合的に判断し、評価していく。				

## (2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	・身近な自然現象に興味・関心をもち、積極的に授業へ参加しているかどうか 到達目標：班別実験など積極的に参加し、丁寧なレポートを作成する。また、授業に関わる提出物などは完璧に提出する。	授業態度の観察 ノート・課題の提出状況 授業中の発言や授業後の質問等
思考・判断	・事実に基づいて科学的に判断する力がみについているかどうか 到達目標：定期考查・小テストが満点である。レポートの内容がよい。	考查点 レポートの内容
技能・表現	・観察・実験に必要な基本的な技能が身につけているかどうか 到達目標：実験観察を積極的に行い、わかりやすいレポートをまとめる。	実験・観察がうまくでき ているかどうか レポートの内容
知識・理解	・自然に対する基本的な概念や原理・法則を理解し、基本知識が身に付いているかどうか 到達目標：定期考查・小テストが満点である。レポートの内容がよい。	考查点 小テスト

## (3) 評定の出し方について

<p><b>考查</b> 定期考查(100点満点)を実施し、それを7割とする。</p>
<p><b>平常点</b> 態度、提出物、実験レポート、スケッチ、課題をそれぞれ評価し、3割とする。</p>

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	保健体育・体育	学年・学級	5年・男子	単位数	2
--------	---------	-------	-------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

1. 各種の運動の合理的な実践を通して、運動能力を高め、心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの能力を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる。
2. 運動の合理的な実践を通して、自分たちで計画を立てて、集団を組織する能力と態度を育てる。
3. 運動文化を創造・発展させることのできる主体者を育てる。

使用教科書・副教材等	Activev Sports(総合版)	大修館書店
------------	---------------------	-------

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	評価の観点 のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
前 期	4	オリエンテーション 体力測定 集団行動	スポ - ツテストを実施し、自己の体力を認識する。	・スポ - ツテスト ・集団行動					
	5	球技 バスケットボール	1. チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を立てた攻防を展開してゲームができる。 2. 自己の役割を理解して、その責任を果たし、互いに協力してゲームができるようにする。チームの課題や自己の課題を解決できるように、計画的な練習やゲームの仕方を工夫することができる。	1. 相手との攻防の中でボールを運び、シュートして得点を競うゲームの特性を理解し集団技能や個人技能を活用し、ゲームができるようにする。集団技能としては、オフェンス、ディフェンスでの役割を理解する。 2. 個人技能として、パス・キャッチ・シュートなどを身につけるようにする。					
	6	ダンス	1. 自己の能力に応じて、楽しみながら体を動かし、身体表現を通して自己実現ができる、その喜びを味わうことができるようにする。 2. 安全に留意し、計画を立てて、仲間と協力しながら活動できるようにする。	1. 音楽に合わせて、楽しくリズムカルに精一杯動けるようになる。 2. 自由なイメージを、個性を發揮した動きで表現できるようにする。 3. 群の動きや構成の仕方を工夫して、仲間と協力して作品を創り、発表する。					
	7								
	8								
	9	マスケ - ム							
	10	陸上競技 投擲競技	1. 自己の能力に応じて走る技能を高め、競技したり、記録を高めることができるようにする。 2. 課題解決を目指し、計画的な練習や競技の仕方を工夫できる。	1. 投てきには、突き出して投げる種目、助走して投げる種目、回転して投げる種目があるが、危険防止の立場からスタンディングからの投てき技能を高め、より遠くへ投げることをねらいとする					





後   期	12	*バスケットボール	<p>正な判断ができるようになる。</p> <p>ゴールへのシュートを競い合うゲームの特性と技術の構造を理解し、個人技能(ドリブル・パス・シュート)を習得する。</p> <p>集団的技能を理解し、チームの状況に応じた作戦を立て、安全に留意してゲームを行う。</p> <p>ルールを学習し、審判・ゲーム運営を行う。</p>					
	1	陸上競技 *長距離走	<p>自己の体力に応じて課題を設定し、自主的・合理的な練習を通して技能をたかめるようにする。</p> <p>安全に留意し協力して活動するとともに、競技ルールを理解し競技会の企画・運営ができるようにする。</p>	<p>自分のペースをコントロールし、長い距離をより楽に、速く走れる技術を習得する。</p> <p>データの収集および分析ができ、合理的な練習方法などについて科学的な認識がもてるようになる。</p>				
	2	体づくり運動 *縄跳び	<p>自己の体力・能力に応じて技を習得し、全面的な体力の向上をはかる。</p> <p>競技の特性を理解し、個人技能や集団技能を習得させる。</p>	<p>縄跳びの基本的な技術を理解し、習得する。</p> <p>ゲームに必要な基本技術(フットワーク・ストローク・サービスなど)を習得する。</p>				
	3	球技 *バドミントン	<p>自己の課題やチームの課題解決を目指し、練習の仕方を工夫することができるようにする。</p> <p>チームにおける自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに勝敗に関して公正な判断ができるようになる。</p>	<p>バドミントンノ特性や基礎知識を理解し、自主的に課題を持って練習を行なう。</p> <p>安全に留意し、ルールやマナーの遵守や準備。後片付け・審判などの役割を分担して責任を果たす。</p>				
【課題・提出物等】								
【年間を通しての評価方法】			各種目の実技評価(スキルテスト) 出欠状況 授業態度・取り組み姿勢(忘れ物・遅刻なども含む)					

### (2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、公正・協力・責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して運動しようとする。	出欠状況・授業態度・取り組み姿勢(忘れ物・遅刻)
思考・判断	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	行動観察、個人ノート・グループノートの確認
技能・表現	自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	各種目の実技評価、試合または作品発表
知識・理解	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。	個人ノート・グループノートの確認

### (3) 評定の出し方について

<p>考查ポイント</p>
<p>平常点ポイント 各単元における実技評価(70p) 授業参加態度・意欲(10p) 授業道具忘れ物(10p) 授業出席点 (10p)</p>

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	保健体育・保健	学年・学級	5年・全クラス	単位数	1
--------	---------	-------	---------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける

使用教科書・副教材等 高等学校 現代保健体育(大修館書店)・現代保健ノ - ト(大修館書店)

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する 要点 (合格ライン)
前          期	4	思春期と健康	思春期における体の発達の特徴を知り、思春期の行動面・心理面の特徴を理解する。	思春期の体と健康 思春期の心と健康	第 2 回 考 査	授業内容や教科書・保健ノ - トで学習した基本的な内容が理解できている
		性意識と性行動の選択	性意識の男女差を、性的欲求のあらわれ方の違いを通して知り、性にかんする情報が性行動の選択におよぼす影響について理解する。	性意識の男女差と性的欲求 性にかんする情報と性行動		
	5	結婚生活と健康	健康な結婚生活をいとなむ留意点を、心身の発達の見点から知り、結婚生活が家族の健康づくりにどうかかわってくるかを理解する。	心身の発達と健康な結婚生活 結婚生活と家族の健康		
		妊娠・出産と健康	受精・妊娠・出産の過程を知り、妊娠・出産期の健康のために、本人および周囲の人びとが留意すべき点を理解する。	受精・妊娠・出産 妊娠・出産期の健康のために		
	6	家族計画と人工妊娠中絶	健康上からみた家族計画の意義や、避妊法を選択する際の留意点を知り、人工妊娠中絶の条件およびそれが女性の心身におよぼす影響について理解する。	家族計画の意義 避妊法とその選択 人工妊娠中絶		
		加齢と健康	加齢にともなう心身の変化について、形態、機能の両面から知り、中高年期を健やかに過ごすための留意点を理解する。	加齢にともなう心身の変化 中高年期を健やかに過ごすために		
	7	高齢者のための社会的とりくみ	高齢者の生活と健康にかんする現状と、健康課題について知り、高齢社会に対応した保健・医療・福祉の連携の意義と総合対策の必要性を理解する。	高齢者の健康とその支援 保健・医療・福祉の連携		
		保健制度と保健サービス の活用	保健行政の役割と仕組みについて知り、保健サービスの内容と活用方法について理解する。	保健行政の役割としくみ 保健サービスの活用		
		9	医療制度と医療保険	わが国における医療保険のしくみを知り、医療費が支払われるしくみを、自分(家族)の場合を例にして理解する。		
	医療機関と医療サービス の活用		医療機関の選び方について知り、受診場面を想定して、医療機関および医師から必要な情報をひきだすための質問事項を理解する。	医療機関とその役割 医療サービスの活用		
10	大気汚染と健康	大気汚染はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例をあげて理解する。	大気汚染とその原因 大気汚染による健康影響			
	水質汚濁と健康	水質汚濁はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例をあげて理解する。	水質汚濁とその原因 水質汚濁による健康影響			

後 期	11	土壌汚染と健康	土壌汚染はどのようにおこり、どのように健康に影響するかを知り、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染がたがいに関連して、健康に影響することを理解する。	土壌汚染とその原因 土壌汚染による健康影響 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわり	授業内容や教科書・保健ノートで学習した基本的な内容が理解できている	第 4 回 考 査			
		健康被害の防止と環境対	環境汚染の防止、改善への対策を理解する。	環境汚染の防止と改善 産業廃棄物の処理と健康					
	12	環境衛生活動のしくみと働き	ごみ処理の過程を知り、ごみ・し尿や上下水道の整備について、問題点と対策を具体的に理解する。	ごみ処理 上下水道の整備とし尿の処理					
		食品衛生活動のしくみと働き	食品衛生管理のために、行政および製造・生産者が行なっている対策例を理解する。	食品の安全性と行政の役割 食品製造過程における衛生管理					
	1	食品と環境の保健と私たち	食品の安全性を確保するために、私たち自身、ができる対策や、ごみによる環境汚染を予防するために、私たち自身ができる対策を理解する	食品の安全性と私たちの役割 環境の保健と私たちの役割					
		働くことと健康	働くことと健康が相互に影響することを知り、仕事のしかたや職場環境の変化にともない、働く人の健康がどのように変わってきたかを理解する。	働くことと健康のかかわり 働く人の健康問題					
	2	労働災害・職業病と健康	労働災害の防止策として、職場と個人がおこなうべきことを知り、職場における健康管理の必要性や健康管理の活動例を理解する。	労働災害とその防止 職業病をその防止					
		健康的な職業生活	職場の健康増進対策について知り、日常生活での健康増進について理解する。	職場におけるとりくみ 日常生活におけるとりくみ					
	【課題・提出物等】		保健ノート・プリント						
	【年間を通しての評価方法】		授業中の発言及び対話の等の観察 保健ノートの記入・活用状況 定期テスト 出席状況 忘れ物状況						
【教科テスト実施予定等】		年2回実施(第2回考査・第4回考査)							

## (2) 評価の観点・内容および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	授業中の発言及び対話等の観察 保健ノートの活用
思考・判断	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	保健ノート及びワークシート記入
知識・理解	健康・安全の意義を知り、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、障害の防止、健康な生活と疾病の予防などの課題の解決に役立つ基本的な事項を理解し、知識を身につけている。	定期テスト 保健ノートの採点

## (3) 評定の出し方について

### 考査ポイントの具体

定期考査(100点)を70ポイントとする

### 平常点ポイントの具体

授業態度、参加(出欠、忘れ物)、提出物をそれぞれポイントにより評価し、30ポイントとする

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	芸術・音楽	学年・学級	5年・文系選択者	単位数	2
--------	-------	-------	----------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

音楽大学受験に必要な科目ソルフェージュ（聴音、新曲視唱、コールユープンゲン）や楽典をします。	
使用教科書・副教材等	楽典 テキスト

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント			
						関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
前 期	4月	音楽のなりたち ソルフェージュ	音律、記譜上の歴史など 聴音、新曲視唱、コールユープンゲン	楽典	第 1 回 考 査				
	6月	演奏のために ソルフェージュ	音名、音符と休符など 聴音、新曲視唱、コールユープンゲン	楽典					
	9月	小節と拍子 ソルフェージュ	音型と反復とその略記法 聴音、新曲視唱、コールユープンゲン	楽典	第 2 回 考 査				

後 期	10月	演奏記号と用語 ソルフェージュ	音楽の形式について 聴音、新曲視唱、コールユープンゲン	楽典	第3 回 考 査				
	12月	音楽の原理 ソルフェージュ	音程、音階、調など 聴音、新曲視唱、コールユープンゲン	楽典					
【課題・提出物等】			なし						
【年間を通しての評価方法】			楽典を正しく理解し練習問題等をこなしていかけているか。 ソルフェージュを正しくできているか。						
【教科テスト実施予定等】			なし						

### (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	授業態度や課題に対する取り組みの姿勢、忘れ物はないか、等の観点から評価します。	出欠状況・授業態度・取り組み姿勢（忘れ物・遅刻）
知識・理解	楽典をきちんと理解していかれているかを評価します。	練習問題・テキスト
技能	ソルフェージュ能力があるか評価します。	実技テスト

### (3) 評定の出し方について

<b>考查ポイントの具体</b> なし
<b>平常点ポイントの具体</b> 授業態度や課題に対する取り組みの姿勢、忘れ物はないか、等の観点から評価します。

教科・科目名	芸術・美術	学年・学級	5年・文系選択者	単位数	2
--------	-------	-------	----------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に集中し、自らが課題を見つけ解決する。</li> <li>・ 忘れ物をしない。</li> <li>・ 提出期限を必ず守る。</li> </ul>	
履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路選択で美術関係を考えている生徒は、6年でも履修すること。</li> </ul>	
使用教科書・副教材	高等学校 日本文教出版 美術

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	時間	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動(学習内容)	評価の観点ポイント				
						関心・意欲・態度	感受・表現工夫	創造的・技能	鑑賞能力	
前期	4	1	陶芸の歴史について	陶芸を始めるにあたり、陶芸の歴史及び産地、成形方法、制作手順などを学ぶ		○				
	5	16	茶碗づくり ひもづくりにより茶碗づくり	陶器の美しさを感じとる。 ひもづくりを理解する 茶碗の形、名称を理解する	粘土を練る あら練り、菊練りを体験しながら練るコツを理解する 粘土をひもで積み上げる 粘土を板状に切る 作品自然乾燥後、素焼き 絵づけ及び、釉がけをする。 本焼きをする。	○	○	○		
				板づくりによる陶器時計づくり	板づくりを理解する	粘土をひもで積み上げる 粘土を板状に切る 作品自然乾燥後、素焼き 絵づけ及び、釉がけをする。 本焼きをする。	○	○		
				木により積層立体づくり 木の造形	木のもつ木目から、重ねたり、ずらしたりする中で木目の美しさを感じ取る。 重ね方や、ずらし方を工夫してみる。 完成図をイメージする。	基礎的な重ね方を学習し、造形的に美しい形をクロッキー帳に表現する。 クロッキー帳に書いたものの中で造形的に美しい形のもの、練習としてハッポースチロールで試作してみる。	○		○	
	7			美術館に行き感想を書く	合板を糸鋸を使って、切っていく。 合板を使って一つずつの形を枚数等、大きさ等を考える。					
	8		籠づくり	工芸の用と美を意識する						
	9	4		切り絵(トレーニングNo 1、2)	日本と世界の切り絵の違いについて理解する。	事前に用意したプリントを読ませながら、ポイントとなるところに線を引かせる。 カッターナイフの使い方を理解する。 角度によってきれいに切れる角度があることを理解する。				
				切り絵(トレーニングNo 3)	かんたんな切り絵のパターンから魅力を感じ取る。  さらに複雑な切り絵のパターンから魅力を感じ取る。	さらに複雑な切り絵のパターンから魅力を感じ取る。 さらに複雑な切り絵がどこまでできるか。				

後期	10		オリジナル切り絵	これまで学習した内容が理解でき、自分のオリジナル切り絵が制作できるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り絵にするための下書きを書かせる。</li> <li>・切り取る部分と残す部分を明確にする。</li> <li>・白黒のバランスを考えさせる。</li> <li>・つなぎを考える。</li> </ul>	○	○	○
	11	12						
	12							
後期	1	18	写真立ての制作(工芸)	用と美を考えての写真立てを作る	写真立ての周囲の模様を考える。 どんな彫刻刀を使い、どんな彫り方をするのか考える。	○		
	2							
	3							
課題・提出物		授業作品・授業で使用したプリント 夏休みを使っての美術館鑑賞レポート						
年間通しての評価方法		一年間通じて定期テストは実施しないが、その代わりに授業での取り組む姿勢や準備物、そして授業作品の評価が特に評価材料になる。 各学期の成績を総合的に判断して年間の学習成績とします。						

## (2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および内容(評価方法を含む)	
関心・意欲・態度	美術に関する関心・意欲・態度については、そのつどの作品の完成度、作品制作に対する取り組み姿勢から評価します。さらに制作にあたっての授業道具の準備、忘れ物はないかなども評価の対象となります。
芸術的な感受や表現の工夫	与えられた表現材料から多様な表現形式、表現方法を工夫しているか。作品を中心に評価します。
創造的な表現の技能	形や色彩、構成の美しさや表現効果を考え、技法や用具を表現の意図に応じて活用しているかなど作品の中から評価します。
鑑賞の能力	いろいろな作品に対する願いや思いを自分の言葉で感じ取ることが、鑑賞レポートから評価します。

## (3) 評定の出し方について

<p>考査ポイント</p>
<p>平常ポイント</p> <p style="text-align: center;">授業態度、忘れ物      3割                      授業作品      7割とする。</p>

### 教科からのメッセージ

- ・ 美術の分野は限りなく広く、将来必ずやっつけてよかったといえる内容を多く扱っています。それは、簡単にいえば世の中にはあらゆるものには色が使われており、また形のある世界で生きているからです。また、スポーツ分野は体を鍛えますが、美術分野は内面を鍛えます。心の中の考えていることが、色や形になって表現できます。また、芸術分野は、たとえば数学のように一つの答えを求めるのとは違い、40人いれば40人の解答があってよいのです。  
つまりそれが個性です。表現する上で技術がなくて自分の思うようにならずやけになったり、いやになったりすることがあるかもしれませんが、まずはどのようにして表現してやろうか自分なりに答えを導き出す姿勢が一番大切だと思います。最終的に考えてみて表現したことが個々の答えです。  
また、美術は、心の中の思いが表現できることは年齢に関係なくたいへん楽しいことです。絵を描いたり、物をつくったり、つくったものをときに使ったり飾ったりして生活の中で美術はいきていくのです。最後に自分の興味関心が美術方面にあると気付いたら、美術を目指してもよいとおもいます。

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	芸術・書道	学年・学級	5年・文系選択者	単位数	2
--------	-------	-------	----------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

使用教科書 ・副教材等	大阪書籍	高校書道
----------------	------	------

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	評価の観点 のポイント			
						関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解
	4	古典作品 用筆法	書いてみたい作品 制作方法を考える 古典にあった用筆	臨書作品探し 作品の作り方 点画の用筆					
	5	多くの作品を見る 空間とは 作品の客観視	作品効果についての理解 空間処理の把握 他の生徒の作品を客観視で きるか	作品効果について 遠近感 空間処理について お互いで作品添削					
	6	自己作品制作 鑑賞 添削と制作	制作 作品鑑賞できるか 作品添削できるか	制作 作品鑑賞 お互いで作品添削					
	7	完成作品提出 半切作品制作	清書の提出 半切作品を知る	清書提出 半切作品制作					
	9	古典選択 練習 完成作品提出	古典選択 空間処理等制作方法の理解 清書	制作方法 空間処理 清書					

10	仮名の古典 用筆法 いろはうた 継色紙	古典の理解 仮名の用筆法の理解 一字一字の正確さ 空間構成の理解	仮名について 基本用筆 いろはうた 継色紙の空間構成					
11	自分の書きたい文章 漢字仮名交じりの書 の鑑賞	作品制作意図を考えながら 文章を探す 客観的に鑑賞できるか	言葉探し 作品鑑賞					
12	空間処理について  制作 作品の客観視	空間処理を考えながら草稿 を作れるか 制作 客観視しながら自分の作品 を作り上げていけるか	草稿作り 空間処理の方法 制作 お互いで添削					
1	清書	清書	清書					
2	セラミックへの貼付 刻書 色付け・ニス塗り まとめ	セラミックへの貼付 刻法は作品に合っているか 色付け・ニス塗り まとめ	セラミック貼付 刻書 色付け・ニス塗り まとめ					
【課題・提出物等】		・授業時の作品、課題プリント						
【年間を通しての評価方法】		・授業態度・意欲・作品・作品の伸び等が評価材料になる。 ・各学期ごとの成績を総合的に判断して年間の学習成績とします。						

## (2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	各作品の完成度、作品制作に対する取り組み姿勢から評価します。 さらに制作にあたっての授業道具の準備、忘れ物はないかなども評価の対象となります。 書き始めよりレベルが上がるための努力をどの位しているか、書作を通して評価します。	出欠状況・授業態度・ 取り組み姿勢(忘れ物・遅刻)
思考・判断	書く題材をもとに、より良い作品を創るためにどういった表現を工夫するべきかを考え、 筆遣い・墨継ぎ・かすれ・強調したいポイント等を押さえた上で書かれた作品かを評価し ます。	制作事前プリントの確認 作品草稿等
技能・表現	自分で考え、工夫した空間の処理方法や表現方法を使い、筆と墨を効果的に使うことで、 自分自身の本来表現したかったものに、どの位近づいたことができたかを評価します。	授業作品を通して作品 草稿との比較を行う
知識・理解	客観的に作品に対して向き合えたか、自分自身を見つめ直すことができたか、作品制作 を通して変化した部分を評価材料とします。	個人作品・グループ作 品添削プリントの確認

## (3) 評価の出し方について

考查のポイント		
平常点のポイント	授業態度、忘れ物3割	授業作品 7割

## 3 担当者からのメッセージ

毎回作品提出があり、自己の限界を求めて授業を進めます。  
 少ない練習でも中身の濃い作品を作り上げるよう、頭をより使う理論的な組み立てをしていきます。  
 4年次よりも高度な技術と創造力が要求されます。創作作品よりも古典に重点を置き、その古典から手に入れた技  
 空間把握を次の創作のステップとしていきます。  
 芸術方面に進路を希望する人は、志望大学に向けての傾向と対策を練っていくことも重要となります。

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	英語Writing	学科・学年・学級	普通科・5年・全員	単位数	2
--------	-----------	----------	-----------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

4年次に学習した文法を再確認し、実践問題を通し徹底を図る。 学習した文法を用い、英作文の演習により、英語で表現する力を養う。	
使用教科書 副教材等	PROMINENCE English Writing、PROMINENCE English Writing WORKBOOK(東京書籍) EXPERT 英文法・語法演習、EXPERT 英文法・語法演習完成ノート(文英堂) [自学自習教材] Transfer C, D(桐原書店) [週末課題 Aチーム] ポイントアップ基礎編・プレ標準編(啓隆社) [週末課題 Bチーム] DUALSCOPE 総合英語(数研出版) [4年次からの継続使用]

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題 する要点 (合格ライン)
前 期	4	オリエンテーション EJ Bridge 1~10	5文型 / 主語 / 無生物 主語 / 名詞 / 形式主 語 / 自動詞・他動詞 / 動詞型 / 時制 / 修飾 語句 / コロケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学自習に関する小テストを毎週行う。</li> <li>・予習してきた問題を説明を聞きながら、答え合わせをする。</li> <li>・Workbookの問題を解き、答え合わせをする。</li> <li>・週末課題をやり、提出する</li> </ul>	第1回 考查	授業内容、教科書、ワークブック等で学んだことが理解できている。
	5	Part1 Unit1 Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	There+be動詞+ ~ S+V+C(第2文型) S+V+O(第3文型)			
	6	Part1 Unit1 Lesson 4 Lesson 5	S+V+O+O(第4文型) S+V+O+C(第5文型)			
	6	Part1 Unit2 Lesson 6	関係代名詞 who/that	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学自習に関する小テストを毎週行う。</li> <li>・予習してきた問題を説明を聞きながら、答え合わせをする。</li> <li>・Workbookの問題を解き、答え合わせをする。</li> <li>・週末課題をやり、提出する</li> </ul>	第2回 考查	授業内容、教科書、ワークブック等で学んだことが理解できている。
	7	Part1 Unit2 Lesson 7 Lesson 8	比較(比較級・最上級) 未来を表す表現			
	8	Part1 Unit2 Lesson 9	現在完了形			
	9	Part1 Unit2 Lesson 10 Part1 Unit3 Lesson 11 Lesson 12	助動詞 to不定詞(名詞用法)・ 動名詞 to不定詞(形容詞用法)			

後 期	10	Part1 Unit3 Lesson 13 Lesson 14 Lesson 15	to不定詞(副詞用法) S+V(知覚動詞)+O+C(現在分詞・動詞の原形) 受け身	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学自習に関する小テストを毎週行う。</li> <li>・予習してきた問題を説明を聞きながら、答え合わせをする。</li> <li>・Workbookの問題を解き、答え合わせをする。</li> <li>・週末課題をやり、提出する</li> </ul>	第3回 考査	授業内容、教科書、ワークブック等で学んだことが理解できている。
	11	Part1 Unit4 Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18	疑問詞で始まる疑問文 S+V+O(whether/ifで始まる節) whether ~ or...			
	12	Part1 Unit4 Lesson 19 Lesson 20	I wish+S+動詞の過去形 It+be動詞+~(+for...) +to不定詞/動名詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学自習に関する小テストを毎週行う。</li> <li>・予習してきた問題を説明を聞きながら、答え合わせをする。</li> <li>・Workbookの問題を解き、答え合わせをする。</li> <li>・週末課題をやり、提出する</li> </ul>	第4回 考査	授業内容、教科書、ワークブック等で学んだことが理解できている。
	1	Part2 Unit5 Lesson 21 Lesson 22	関係副詞 条件・時などを表す副詞節			
	2	Part2 Unit5 Lesson 23 Lesson 24	比較(原級) 現在進行形・現在完了進行形			
	3	Part2 Unit6 Lesson 25	分詞の形容詞用法 (後置修飾)			
【課題・提出物等】			授業ノート・ワークブック・小テストへの取り組み・週末課題			
【年間を通しての評価方法】			出席状況・授業態度・定期考査・課題テスト・小テスト・提出物の提出状況を総合的に判断する。			
【教科テスト実施予定等】			実施しない			

## (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習慣的に予習ができている。</li> <li>・積極的に言語活動を行っている。</li> <li>・提出物を期限内に提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・提出物の提出状況</li> </ul>
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や目的に応じて正しい英語を使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> </ul>
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な文法項目を正しく理解し、情報や自分の考えなどを英語で書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・提出物</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の発音・文法・構文に関する知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> </ul>

## (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b>  定期考査・課題テストを70ポイントに再計算する。
<b>平常点ポイントの具体</b> 小テスト：10ポイント[EXPERT 英文法・語法演習より出題] 提出物：10ポイント[提出期限を守り、完成していること] 態度点：10ポイント[授業を受ける態度や、指導に従わない場合は減点]

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	外国語・英語	学年・学級	5年・全クラス	単位数	4
--------	--------	-------	---------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

1. 授業では予習を前提とする。与えられた課題は家庭学習で取り組んでから授業にのぞむこと。 2. 1セクションを2時間程度で進める。 3. 毎時間小テストを行う。 4. 週末課題を確実にやり提出すること。 5. 類は発展的な内容も学習する。	
使用教科書・副教材等	教科書：Polestar English Course 福教材：レッスンノート、Listening Laboratory Standard , Sonic Reading 2 速読英単語必修編

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)		
前期	4月	Travel Manners	地域文化によって、異なるジェスチャー、非言語コミュニケーションの大切さを学ぶ。	英文の構造・内容を理解する。 英文を聞き、内容を理解する。 英語で自分の意見を書き、発表する。 英語を発音する。 文法事項を理解し、各レッスンの問題を解く。 小テスト(単語・リスニング)を行う。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回 第25回 第26回 第27回 第28回 第29回 第30回 第31回 第32回 第33回 第34回 第35回 第36回 第37回 第38回 第39回 第40回 第41回 第42回 第43回 第44回 第45回 第46回 第47回 第48回 第49回 第50回 第51回 第52回 第53回 第54回 第55回 第56回 第57回 第58回 第59回 第60回 第61回 第62回 第63回 第64回 第65回 第66回 第67回 第68回 第69回 第70回 第71回 第72回 第73回 第74回 第75回 第76回 第77回 第78回 第79回 第80回 第81回 第82回 第83回 第84回 第85回 第86回 第87回 第88回 第89回 第90回 第91回 第92回 第93回 第94回 第95回 第96回 第97回 第98回 第99回 第100回	各レッスンにでてくる語彙を暗記する。各英文の内容を理解する。文章全体の趣旨をとらえている。		
	5月	Visions of the Night	睡眠サイクルやフロイトの夢診断を交えて夢のメカニズムを考える。					
	6月	Doctors to the World	国境無き医師団の活動について、世界で一番命の短い国、シエラレオネで活動した山本医師のメッセージを読む。					
	前期	7月	Living with Movies	字幕翻訳家、戸田奈津子さんのエッセイ。翻訳家になるまでの経緯、字幕作家の手順や苦労について		英文の構造・内容を理解する。 英文を聞き、内容を理解する。 英語で自分の意見を書き、発表する。 英語を発音する。 文法事項を理解し、各レッスンの問題を解く。 小テスト(単語・リスニング)を行う。	第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回 第25回 第26回 第27回 第28回 第29回 第30回 第31回 第32回 第33回 第34回 第35回 第36回 第37回 第38回 第39回 第40回 第41回 第42回 第43回 第44回 第45回 第46回 第47回 第48回 第49回 第50回 第51回 第52回 第53回 第54回 第55回 第56回 第57回 第58回 第59回 第60回 第61回 第62回 第63回 第64回 第65回 第66回 第67回 第68回 第69回 第70回 第71回 第72回 第73回 第74回 第75回 第76回 第77回 第78回 第79回 第80回 第81回 第82回 第83回 第84回 第85回 第86回 第87回 第88回 第89回 第90回 第91回 第92回 第93回 第94回 第95回 第96回 第97回 第98回 第99回 第100回	各レッスンにでてくる語彙を暗記する。各英文の内容を理解する。文章全体の趣旨をとらえている。
		8月	Future Talk	米国TV司会者ラリー・キングによる、ビル・ゲイツへのインタビュー。今後私たちの暮らしはどのような発展を遂げるのか				
		9月						

後 期	10月	Smart Guessing	物理学者E・フェルミの当て推量の方法について考える。	英文の構造・内容を理解する。英文を聞き、内容を理解する。英語で自分の意見を書き、発表する。英語を発音する。文法事項を理解し、各レッスンの問題を解く。小テスト(単語・リスニング)を行う。	第3回 考查	各レッスンにてでくる語彙を暗記する。各英文の内容を理解する。文章全体の趣旨をとらえている。
	11月	The Most Important 20th Century inventions	20世紀に於ける最大の発明とは? アンケート結果のグラフと説明文から、設問で問われている情報を探し出す。			
	12月	In Search of Light	ゴッホの人生、日本美術へのあこがれ、弟との深い絆など。			
	1月	Will This Be the Bio-Century?	遺伝子組み換えに期待されること、懸念されることを、賛成派、反対派の両方の視点から考える。	英文の構造・内容を理解する。英文を聞き、内容を理解する。英語で自分の意見を書き、発表する。英語を発音する。文法事項を理解し、各レッスンの問題を解く。小テスト(単語・リスニング)を行う。	第4回 考查	各レッスンにてでくる語彙を暗記する。各英文の内容を理解する。文章全体の趣旨をとらえている。
	2月	What Do You Think of Cloning Your Pet?	クローンペットについて意見を述べ合う愛犬家の会話から。			
	3月	The Pianist	映画化されたベストセラー「戦場のピアニスト」の原作。心うたれる物語文を精読する。			
【課題・提出物等】			1.授業の最初に小テスト 2.リスニング 3.投げ込み教材 4.速読			
【年間を通しての評価方法】			小テスト 提出物 授業態度 出席状況を総合的に判断			

## (2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	きちんとした服装や姿勢で積極的に授業に参加している・予習が出来ている・提出物は期限を守って、完全なものを提出している・積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	授業ノートなどの提出物の内容、学習活動への参加の仕方や態度
思考・判断	日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど、相手が伝えようとすることを理解し、状況が判断できる。	定期考查・小テスト、授業ノートなどの内容、授業中の発表
技能・表現	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できる。	定期考查・小テスト、授業ノートなどの内容、授業中の発表
知識・理解	日常的な話題についての英語の学習を通して、発音、文法、構文に関する知識や使い方を身につけると共にその背景にある文化などを理解している。	定期考查・小テスト、授業ノートなどの内容、授業中の発表

## (3) 評定の出し方について

<b>考查ポイントの具体</b>  3つの考查(定期考查・教科テスト・課題テスト)で70ポイント
<b>平常点ポイントの具体</b> 小テスト点 : 10ポイント(毎時間の小テストの平均点) 提出物点 : 10ポイント(授業ノート・予習復習ノート・復習ノート・週末課題) 意欲・態度点 : 10ポイント(授業態度・プラスアルファの課題)

# 平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	外国語・英語	学年・学級	5年・文 / 文	単位数	2
--------	--------	-------	----------	-----	---

## 1 年間の学習目標・履修上の注意等

<b>学習目標：</b> 4年次の英語 及びオーラルコミュニケーションでの学習事項をふまえ、長文・文法、語法・作文・リスニングの各分野を総合的に学習する。 <b>履修上の注意：</b> 指示された事項の予習をして授業に臨むこと。 小テスト対策・復習などの家庭学習をきちんとすること。 提出物は必ず期限を守って提出すること。	
使用教科書 ・副教材等	文 : Accord stage1 文 : 長文読解Build up1 英和辞書

## 2 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)		
前期	4	オリエンテーション	授業の目標及び心構えの確認	授業の受け方・ノートの取り方などを確認する	第1回 考查	* 授業で学んだ内容 * 使用する問題集の内容		
		Accord 文 - L 1,2 Build up 文 -ch.1,2	* かなり長い文に慣れ、内容を把握できるようにする * 長文に関連した文法問題に慣れる	* 予習を前提とし、 ・ 英文を聞く ・ 英文の内容を理解する ・ 文法問題を解く ・ 内容把握問題を解く ・ 小テストを行う				
		Accord 文 - L 3,4 Build up 文 -ch.3,4	速読を意識したパタグラフリーディングを取り入れる。					
	6	Accord 文 - L 5 Build up 文 -ch.5	・ 小テストを行う				第2回 考查	* 授業で学んだ内容 * 使用する問題集の内容
		Accord 文 - L 6,7 Build up 文 -ch.6,7	* かなり長い、身近な話題を扱った文に慣れ、内容を把握できるようにする * 長文に関連した文法問題に慣れる	* 予習を前提とし、 ・ 英文を聞く ・ 英文の内容を理解する ・ 文法問題を解く ・ 内容把握問題を解く ・ 小テストを行う				
		Accord 文 - L 8,9 Build up 文 -ch. 8,9						
8・9	Accord 文 - L 10 Build up 文 -ch.10	* 未習箇所は夏休み課題とする。(予定)						

後 期	10	Accord 文 - L 11,12 Build up 文 -ch.11,12	* 面白く読める長文を中心に、対話文なども扱い、内容を把握できるようにする。文全体を大きく把握する練習をする	* 予習を前提とし、 ・英文を聞く ・英文の内容を理解する ・文法問題を解く ・内容把握問題を解く ・小テストを行う	第3 回 考 査	* 授業で学んだ内容 * 使用する問題集の内容
	11	Accord 文 - L 13,14 Build up 文 -ch.13,14	* 長文に関連した文法問題が解けるようにする ・小テストを行う	* 予習を前提とし、 ・英文を聞く ・英文の内容を理解する ・文法問題を解く ・内容把握問題を解く ・小テストを行う		
	12	Accord 文 - L 15,16 Build up 文 -ch.15	* さらに語数が多い長文に慣れ、内容把握ができるようにする * 様々な問題形式に慣れ、理解力を身につける	* 予習を前提とし、 ・英文を聞く ・英文の内容を理解する ・文法問題を解く ・内容把握問題を解く ・小テストを行う	第4 回 考 査	* 授業で学んだ内容 * 使用する問題集の内容
	1	Accord 文 - L 17,18 Build up 文 -ch.16				
	2・3	Accord 文 - L 19,20 Build up 文 -ch.17,18				
【課題・提出物等】			授業ノート			
【年間を通しての評価方法】			定期考査・課題テスト・小テスト・提出物の提出状況・授業態度・出席状況を総合的に判断する。			
【教科テスト実施予定等】			なし			

## (2) 評価の観点・内容・および評価方法

		評価方法
関心・意欲・態度	* 予習ができている * 提出物は期限を守ってきちんとした内容のものを提出している * 積極的に言語活動を行っている	・授業態度・提出物 ・予習などの取り組み状況
思考・判断	* 状況に合わせて正しい英語を使うことができる * 英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えを理解できる	・活動の取り組み ・定期考査 ・小テスト
技能・表現	* 情報や考えなどを英語で話したり、書いたりできる * 文法を正しく理解し、正しい英文が書ける	・活動の取り組み ・定期考査 ・小テスト・提出物
知識・理解	* 英語の学習を通して、発音・文法・構文に関する知識を使い方に関する知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している	・授業の様子 ・定期考査

## (3) 評定の出し方について

<b>考査ポイントの具体</b> ・定期考査 70ポイント
<b>平常点ポイントの具体</b> ・小テスト点 : 10ポイント ・提出物点 : 10ポイント ・意欲・態度点 : 10ポイント